

2023年度（令和5年度）

事業計画書



学校法人

和泉短期大学

目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	10
3. 専 攻 科	18
4. キリスト教活動	19
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	36
7. 広 報 活 動	52
8. 施設・設備・経費	54
9. 財務計算書 (5 か年推移)	58

和泉短期大学の沿革

1956 年 5 月 (昭和 31 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960 年 5 月 (昭和 35 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964 年 6 月 (昭和 39 年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965 年 4 月 (昭和 40 年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員 40 名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966 年 3 月 (昭和 41 年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971 年 11 月 (昭和 46 年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976 年 4 月 (昭和 51 年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4 月	学生入学 定員 250 名 に変更認可された。
8 月	全学神奈川県相模原市の 新校舎に移転 した。
1978 年 2 月 (昭和 53 年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981 年 2 月 (昭和 56 年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7 月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985 年 4 月 (昭和 60 年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員 80 名)
1986 年 6 月 (昭和 61 年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988 年 3 月 (昭和 63 年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。(定員 100 名)
4 月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990 年 4 月 (平成 2 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認可された。
1991 年 3 月 (平成 3 年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。
1992 年 2 月 (平成 4 年)	保母養成課程 が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4 月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9 月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995 年 4 月 (平成 7 年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。

1996 年 4 月 (平成 8 年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。
1999 年 4 月 (平成 11 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000 年 4 月 (平成 12 年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001 年 4 月 (平成 13 年)	男女共学制度 を導入した。
2002 年 4 月 (平成 14 年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006 年 5 月 (平成 18 年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008 年 3 月 (平成 20 年)	(財) 短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6 月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10 月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010 年 3 月 (平成 22 年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4 月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20 名)
2013 年 4 月 (平成 25 年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014 年 4 月 (平成 26 年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015 年 3 月 (平成 27 年)	(財) 短期大学基準協会の 2 回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016 年 5 月 (平成 28 年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017 年 10 月 (平成 29 年)	児童福祉研究室設置
2019 年 1 月 (平成 31 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2020 年 6 月 (令和 2 年)	深町正信理事長 退任、後任として理事 伊藤忠彦氏 が理事長に就任した。
2022 年 3 月 (令和 4 年)	(一財) 大学・短期大学基準協会の 3 回目の「認証評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2022 年 4 月 (令和 4 年)	学生入学 定員 200 名 に変更認可された。 伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 須田拓氏 が理事長に就任した。

設置学校 学校法人和泉短期大学

理事長 須田 拓 (すだ たく)

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名

入学定員

収容定員

児 童 福 祉 学 科 (2 年制)

200 名

400 名

専攻科介護福祉専攻 (1 年制)

20 名

20 名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016 年 2 月 24 日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」（聖書：マタイによる福音書第 5 章 16 節）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

2020 年 3 月 9 日教授会改訂

本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士（児童福祉学）の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積み中で学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な価値観、知識・技能を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に期待される学習経験：児童福祉学科】

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に期待される学習経験：専攻科介護福祉専攻】

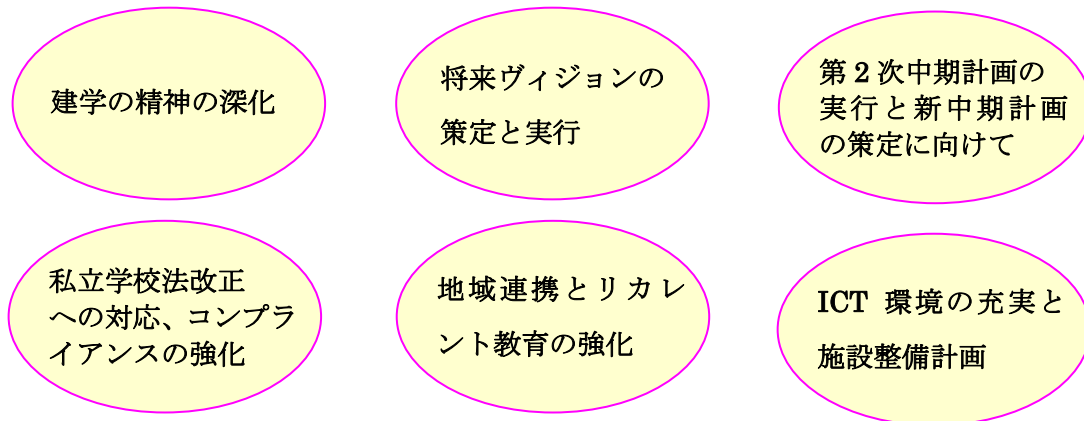
1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

1. 2023 年度学校法人和泉短期大学基本構想

理事長 須 田 拓

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第5章16節】



大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		大学の財政赤字	大学の離学者・進路変更	短期大学進学者の減少
	大 学	短期大学			
1992 年 205 万人 2023 年 110 万人 2040 年 76 万人 (予想)	1992 年度 24.6% 2022 年度 56.0%	1992 年度 11.7% 2022 年度 3.7%	2021 年度 大学 33.1% 短大 72.3%	約 120,000 人 7.0% (学習意欲の喪失、経済的困窮、 学生生活不適応) 非正規雇用の増加	1992 年 205 万人 2023 年 110 万人 2040 年 76 万人 (予想)

今年度の目標と課題

1. 建学の精神の深化 建学の精神の下に、それに賛同する者たちが集まって自発的に建てられるのが私立学校です。 和泉短期大学は、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、それに基づいて「愛と奉仕」をスクールモットーとしています。 2023年度は、チャペルアワーを重視し、キリスト教信仰の本質がわかりやすく伝えられるように努めると共に、和泉短期大学のルーツを可視化して、入学者のオリエンテーションに活用します。	4. 私立学校法改正への対応、コンプライアンスの強化 私立学校法の改正は、これまでも短期大学版ガバナンスコードの制定とその履行などを通じて、ガバナンスの強化、コンプライアンスの強化に取り組んで参りましたが、この法改正への対応を通して、ますますステークスホルダー、そして社会から信頼される短期大学となるよう努めて参りたいと思います。
2. 将来ヴィジョンの策定と実行 学内で3回の将来構想会議を開き、和泉短期大学が掲げるべき方針と、あるべき体制について協議を重ね、理事会・評議員会に報告をいたしました。 和泉短期大学は、長年にわたって「保育＋福祉」を掲げ、子どもの権利を擁護できる保育者を育成することを目指してきました。 本学独自の「保育ソーシャルワーカー」育成制度の開始を目指し、これからの時代のあるべき保育者の姿を率先して提示すると共に、専攻科をリニューアルして継続することを検討します。	5. 地域連携とリカレント教育の強化 地域密着型の保育者養成校として、地域との連携を深めていきたいと思ひます。 保育者の務めの素晴らしさを知って保育者を目指す方々が興されるよう、高校、小学校、中学校への働きかけを強化して参ります。 卒業生が本学に帰ってくる機会や、研修の機会を充実させ、さらに研修については卒業生に限らず広く開放して、地域の保育・福祉に貢献すべく、新たな取り組みを模索して参ります。
3. 第2次中期計画の実行と新中期計画策定に向けて 第二次中期計画(2020年度～2024年度)の4年目にあたりまゝす。いよいよ第二次中期計画の完成に向けて、なお途上にある事項の実行に取り組んで参ります。 新たに取り組む事柄を具体化し、2024年度の早期に第三次中期計画を策定できるよう、その準備に取り組まゝす。	6. ICT 環境の充実と施設整備計画 和泉短期大学の1号館は築46年を経過しました。どのような改修が必要であるのか、また時代に合わせたどのような設備が必要であるのかなど、今後の校舎のプランを立てる必要があります。 高度情報化社会にあつて、ICT 教育環境整備委員会、ICT 環境を検証し、必要な整備を行いたく思ひます。ハード・ソフトの両面から、十分に情報を生かすことのできる環境を整えて参ります。

1. 学校法人和泉短期大学

「2023年度事業計画」

理事長 須田 拓

和泉短期大学は67年目の歩みを迎えます。しかし、18歳人口のさらなる減少に加えて、2022年の出生数はついに80万人を割り込むなど、予想以上のペースで少子化が進行し、本学を取り巻く状況は厳しいものがあります。

本学も既に2022年度より入学者定員の適正化（削減）を行い、さらに2023年度を以て、介護福祉専攻科の募集停止を決めるなどして参りました。しかし、保育者が必要のない時代になることは決してありませんし、むしろ、社会は確かな保育者をますます必要としています。本学は、この厳しい時代の中でもなお主なる神から与えられた務めがあると信じ、将来に向かう展望を描き、良い保育者を生み出すために前進し続けて参りたく思います。

まずは、入学者の確保に全力を尽くす必要があることは言うまでもありません。幸い、2023年度入学者は、昨年の入学者数をわずかに上回ることができました。しかし、今後、さらに魅力ある短期大学としていくことで、さらに多くの学生を確保することができるよう、努めて参りたく思います。また、入学後の離学者が一人でも少なくなるよう、対策をさらに強化して参りたく思います。

2022年度は、全学的に、3回の将来構想会議を開いて、和泉短期大学の将来のあり方について検討して参りました。それを踏まえて、2023年度の授業計画として、以下の**6つの柱**を掲げます。

1. 建学の精神の深化

私立学校にとって、その存立の基礎にあるのは建学の精神です。建学の精神の下に、それに賛同する者たちが集まって自発的に建てられるのが私立学校です。

私たち和泉短期大学は、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、それに基づいて「愛と奉仕」をスクールモットーとしています。

和泉短期大学は、戦争で深く傷ついた子どもたちのために尽力されたクラーク博士が初代総主事を務めたクリスチャン・チルドレンズ・フンド（CCF）の支援により、様々な社会事業やララ物資の支援等に尽力されたバット博士を記念した、バット博士記念ホームと、その施設職員の養成所が設立されたことに起源を持ちます。それはキリスト教信仰抜きには起こり得ないことでした。その精神を受け継いでいくためにも、この学校の存在は、常にキリスト教信仰から生まれ出てくるものでなければなりません。

2023年度は、チャペルアワーを重視し、またキリスト教信仰の本質がわかりやすく伝えられるように努めると共に、和泉短期大学のルーツを可視化して、入学者のオリエンテーションや新たに加わる教職員へのオリエンテーション等にも活用し、さらに、本学が確かな基盤を持った教育を行っていることを広くアピールすることができればと願っています。

2. 将来ヴィジョンの策定と実行

2022年度は、先述の通り、学内で3回の将来構想会議を開き、これからの時代に和泉短期大学が掲げるべき方針と、あるべき体制について協議を重ね、理事会・評議員会にも報告をいたしました。2023年度は、それをさらに具体化させつつ、将来構想を明確にし、それに基づいた歩みを進めて参りたく思います。

和泉短期大学は、児童福祉学科としての保育者養成を目指し、長年にわたって「保育＋福祉」を掲

げ、子どもの権利を擁護できる保育者を育成することを目指してきました。この保育者像こそ、多様化、また複雑化する現代社会にあって、必要とされる保育者であると確信しています。この観点から、保育・教育の面でも福祉の面でも、さらに教育を充実させていくと共に、本学独自の「保育ソーシャルワーカー」育成制度の開始を目指すなど、これからの時代のあるべき保育者の姿を率先して提示して参りたく思います。

こういった取り組みの一環として、本学は喀痰吸引等研修の神奈川県登録機関となり、2023年度から、相模原市、相模原市保育連絡協議会、相模原市保育士会、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市高齢者福祉施設協議会の後援を受け、研修を開講いたします。それによって、医療的ケアのできる保育者への道を開きます。

また、現行の専攻科について、2023年度を以て募集停止とした上で、専門学校、専攻科と受け継いできた本学の大切な伝統をどのようにこれからの歩みに生かしていくのかを検討して参りました。上記のように、本学の目指すべき姿勢を検討し、再確認する中で、専攻科のプログラムが、高齢者介護の従事者だけでなく、質の高い保育者を育成するためにも大きな役割を果たし得ること、そして例えば障がいについて深く理解する保育者の育成、人間を子どもから高齢者までトータルに理解する児童福祉従事者の育成にも大きな役割を果たし得るとの認識に至り、専攻科の位置づけについて再検討を行った結果、短大の2年間と併せてヒューマンライフケアのトータルの学びを提供するためのものとして、2024年度にリニューアルした上で募集を継続する可能性を検討しています。このことについての結論を早期に出したく思います。

3. 第2次中期計画の実行と新中期計画の策定に向けて

本年度は、第二次中期計画（2020年度～2024年度）の4年目にあたります。いよいよ第二次中期計画の完成に向けて、なお途上にある事項の実行に取り組んで参ります。

2023年度は、その中から浮かび上がってきた次の課題を明確にすると共に、上記の将来構想を踏まえて、新たに取り組む事柄を具体化し、2024年度の早期に第三次中期計画を策定できるよう、その準備に取り組めます。

4. 私立学校法改正への対応、コンプライアンスの強化

2022年度に短期大学設置基準が改正され、さらに近日中に私立学校法の改正が見込まれるなど、短期大学を取り巻く法制度が変化しています。特に、私立学校法の改正は、私立学校のガバナンス改革を目指したもので、理事会や評議員会のあり方にも関わるものです。

本学はこれまでも短期大学版ガバナンスコードの制定とその履行などを通じて、ガバナンスの強化、コンプライアンスの強化に取り組んで参りましたが、この法改正への対応を通して、ますますステークホルダー、そして社会から信頼される短期大学となるよう努めて参りたく思います。

5. 地域連携とリカレント教育の強化

地域密着型の保育者養成校として、ますます地域との連携を深めていきたいと思っています。「はっぴい」や「すまいいい」を通じた地域の方々の子育て支援の充実と共に、地域から保育者を志す方が生み出されていくよう、方策を考えていきたいと思っています。そのために、早くから保育者の務めの素晴らしさを知って保育者を目指す方々が興されるよう、高校だけでなく、地域の小学校・中学校への働きかけも強化して参りたく思います。

保育者は、卒業後も、絶えず新しい状況への対応や、さらなるスキルアップを必要とします。本学

は、高大連携・入学前教育を充実させると共に、卒業後も「面倒見のよい短大」であることを目指し、卒業生が本学に帰ってくる機会や、研修の機会を充実させ、さらに研修については卒業生に限らず広く開放して、地域の保育・福祉に貢献すべく、新たな取り組みを模索して参りたく思います。

6. ICT 環境の充実と施設整備計画

2023年度も、全教室の窓への網戸の設置や必要な補修など、建物の維持整備を行います。

しかし、和泉短期大学の1号館は築46年を経過しました。まだ十分に使用可能で、古さを感じさせない建物ですが、築50年を目処に、どのような改修が必要であるのか、また時代に合わせたどのような設備が必要であるのかなど、今後の校舎のプランを立てる必要があります。2023年度はその検討を開始する年としたいと思います。

また、高度情報化社会にあって、大学のICT環境の充実、さらには大学のDX化が叫ばれています。本学としても、ICT環境を検証し、必要な整備を行いたく思います。既に2022年度に、学内に従来からのICT推進委員会を改組する形でICT教育環境整備委員会を立ち上げました。ハード・ソフトの両面から、教育においても、事務組織においても、十分に情報を生かすことのできる環境を整えて参りたく思います。

法人事業計画

○理 事 会

第1回	2023年	5月	26日(金)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2023年	10月	21日(土)	理事会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第3回	2024年	1月	27日(土)	理事会	於：和泉短期大学
第4回	2024年	3月	23日(土)	理事会(予算)	於：和泉短期大学

○評議員会

第1回	2023年	5月	26日(金)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2023年	10月	21日(土)	評議員会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第3回	2024年	3月	23日(土)	評議員会(予算)	於：和泉短期大学

○学内運営協議会

- 出席者(9名)：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、
事務局次長 2名

2023年	4月	10日(月)	4月	17日(月)	4月	24日(月)	5月	8日(月)
	5月	15日(月)	5月	22日(月)	5月	29日(月)	6月	5日(月)
	6月	12日(月)	6月	19日(月)	6月	26日(月)	7月	3日(月)
	7月	10日(月)	7月	17日(月)	7月	24日(月)	7月	31日(月)
	8月	28日(月)	9月	4日(月)	9月	11日(月)	9月	25日(月)
	10月	2日(月)	10月	9日(月)	10月	16日(月)	10月	23日(月)
	10月	30日(月)	11月	6日(月)	11月	13日(月)	11月	20日(月)
	11月	27日(月)	12月	4日(月)	12月	11日(月)	12月	18日(月)
2024年	1月	15日(月)	1月	22日(月)	1月	29日(月)	2月	5日(月)
	2月	19日(月)	2月	26日(月)	3月	4日(月)	3月	11日(月)
	3月	18日(月)	(全41回)					

○法人行事

2023年	4月	10日(月)	イースター礼拝
	5月	15日(月)	創立記念礼拝
	5月	29日(月)	ペンテコステ礼拝
	10月	16日(月)	召天者記念礼拝
	10月	30日(月)	宗教改革記念礼拝
	12月	4日(月)	アドベント礼拝
	12月	9日(土)	クリスマス・コンサート
	12月	11日(月)	クリスマス礼拝
2024年	1月	9日(火)	新年礼拝
	3月	2日(土)	和泉スプリングコンサート
	3月	11日(月)	卒業・修了感謝礼拝

2. 和泉短期大学

「2023年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

2020 年より、全世界に新型コロナウイルス感染症が広がって、4 年目に入りました。現在は少しずつ以前の生活や社会活動に戻りつつありますが、完全に終息したわけではありません。いつ新しい変異株が生まれ、感染拡大が起きるかわかりませんが、いずれにしても、治療薬や治療法が確立されるまでは、感染予防やマスクのない生活に戻ることはないと思います。

しかし、この厳しい環境の中で、本学はコロナ禍の対応に工夫をし、多くのことを学んできました。また、教育におきましてこのような非常事態の中で「教育の質の保証」をするために努力をしてきました。

少子高齢化や 18 歳人口の減少が急激に進む中で、本学のような小規模な短期大学の運営は厳しく、2022 年度より入学定員の適正化（250 名から 200 名に削減）や専攻科介護福祉専攻の 2024 年度生からの募集停止を余儀なくされました。

しかし、本学は、建学以来培ってきた保育や介護の知識や技術を何とか本学の教育や地域社会に生かせないかという思いから、今年度 3 回に亘って将来構想会議を開催しました。この内容につきましては理事会、評議員会で報告致しましたが、本学は、これらの意見を慎重に検討し、和泉短期大学の魅力を積極的に具体化し、地域に必要とされる短期大学となるよう努力したいと思います。

さて、2023 年度の事業計画は、以下の 5 項目と致しました。

1. 建学の精神の深化
2. 入試改革と離学者対策
3. これからの和泉短期大学のあるべき体制について
4. 地域連携とリカレント教育
5. 施設整備と ICT 環境の充実

1. 建学の精神の深化

学校法人和泉短期大学はキリスト教信仰によって建てられたキリスト教学校であります。

「愛と奉仕」をスクールモットーとし、2014 年度より「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神と致しました。

本学の使命は、和泉で学ぶ者に幅広い教養と保育者としての専門的な知識・技術を修得させ、キリスト教信仰に基づく人格教育を行い、子どもの権利を護ることのできる保育者を育成することにあります。

そのためには、キリスト教学校の土台となる「チャペルアワー」をより豊かなものとし、「キリスト教関係の科目」を建学の精神を支える重要科目として、人格教育の核となるようにすることです。

そして今年度は特に、本学のルーツの可視化をし、新入生のオリエンテーションだけではなく、本学教職員にも本学がキリスト教信仰のボランティアズムによって建てられた学校であることを理解してもらいたいと思っています。

2. 入試改革と離学者対策

18歳人口の減少や80万人を割り込む2022年の出生率は大学、短期大学にとって、大変厳しいものがあります。本学は2022年度から入学定員を250名から200名に変更しましたが、それでも今年度も定員にはわずかに手が届きませんでした。しかし、これは他の多くの短期大学に比べれば高い充足率であり、本学の入試改革は成果を上げていると言っていると思います。

また、これからの対策と致しましては、高等学校との関係だけではなく、近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校との交流を密に持ちながら、保育の仕事の魅力を本学から発信する機会を作りたいと考えています。

一方で、入学した学生が本学を離れていく離学者の課題もあり、本学の離学者はここ数年全国平均を超えています。主な離学の理由は、奨学金などが充実してきていますので「経済的困窮」というよりもむしろ「保育者志望のミスマッチ」や「学力不足」で入学してくる学生に多いと思われます。しかし、ここで離学の原因を改めて調査し、その対策を早急に練りたいと思います。

3. これからの和泉短期大学のあるべき体制について

本学は児童福祉学科で、子どもの権利を護ることのできる保育者の養成を行い、専攻科で障がいのある子ども・大人、高齢者など世代を超えた人とその家族を支える担い手の養成を行ってきました。しかし、本学のこれからのあるべき姿を検討しているうちに、児童福祉学科も専攻科も別々のものではなく、多世代、様々なニーズを有する人を支えるという意味では、切り離せないものだということが分かってきました。

また、3回の将来構想会議において、専攻科の継続、またはリニューアルをしたらどうかという意見が多く出ました。そして、近年の専攻科学学生の志望動機等を調べてみましても、専攻科のプログラムが、単に高齢者の介護に携わるだけではなく、障がいについて深く理解し、人を子どもから高齢者までトータルに理解することのできる質の高い保育者を育成する大きな役割を果たしていることも分かってきました。

そこで、専攻科の位置づけについて再検討を致しました結果、児童福祉学科と合わせてヒューマンライフケアのトータルの学びを実現するために、2024年度生以降の学生募集の継続を提案したいと思います。

4. 地域連携とリカレント教育

コロナ禍も4年目に入り、その対応にいくらか慣れてきましたので、地域密着型の短期大学と致しましては、地域との連携をより深めていきたいと、2023年度は下記のことを進めていきたいと思っています。

- ・子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」の通常開催
- ・「児童福祉研究室」の保育・福祉に関する講演や地域住民の相談支援
- ・「相模原市保育連絡協議会」「相模原市幼稚園・認定こども園協会」との連携
- ・「バット博士記念ホーム」「チャイルド・フアンド・ジャパン」「和泉保育園」とのより充実した協力関係
- ・保育士資格を持つ者に対する喀痰吸引等研修の開講

また、保育者は、養成校卒業後も、絶えず新しい状況への対応や、さらなるスキルアップを必要とします。本学は、高大連携や入学前教育を充実させるとともに、卒業生が本学に

帰ってくるホームカミングの機会や、キャリアアップ研修、潜在保育士の再教育を充実させ、さらに、再就職先の斡旋についても充実させて、地域の保育・福祉に貢献すべく、新たな取り組みも模索したいと思います。

5. 施設整備と ICT 環境の充実

世田谷より相模原に移転して校舎は築 47 年目を迎えます。老朽化していますが、丁寧な修繕工事を続ければ、まだ十分に使用可能です。私は利用されていない場所、例えばボイラー室や 1 号館 1 階の書庫等に手を入れて、活用できるようにしたらどうかと思っています。

また、高度情報化社会にあって、大学の ICT 環境の充実、さらには大学の DX 化が叫ばれていますが、本学としても、ICT 教育環境整備委員会の下、ICT 環境を検証し、必要な整備を行っていく予定です。ハード・ソフトの両面から、教育においても、事務においても、十分に情報を生かすことのできる環境を整えていきたいと思っています。

以上の 5 項目です。

この事業計画につきましては、全教職員が参加する将来構想会議で意見を出し合い、教授会で討論し、理事会、評議員会に提案します。理事会、評議員会、教授会が一体となって和泉短期大学の改革を行いたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(1) 学事予定

2023 年	4 月	3 日 (月)	入学式
		4 日 (火)	1 年前期オリエンテーション 2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング 専攻科前期オリエンテーション、教科書販売
		5 日 (水)	1 年教科書販売、健康診断 2 年前期オリエンテーション、アセスメントテスト① 専攻科健康診断、前期授業開始 教職員健康診断
		6 日 (木)	1 年アセスメントテスト① 2 年教科書販売、健康診断
		7 日 (金)	1 年新入生研修会
		10 日 (月)	イースター礼拝 1 年、2 年前期授業開始
		29 日 (土)	オープンキャンパス①
5 月		9 日 (火)	高校教員対象進学説明会①
		10 日 (水)	2023 年度第 1 回創立記念フェア 高校教員対象進学説明会②
		13 日 (土)	オープンキャンパス②
		15 日 (月)	創立記念日、創立記念礼拝
		17 日 (水)	実習指導連絡会 (幼稚園)
		27 日 (土)	はっぴい①
		28 日 (日)	オープンキャンパス③
		29 日 (月)	ペンテコステ礼拝
6 月		2 日 (金)	ナイトオープンキャンパス①
		5 日 (月)	1 年避難・防災訓練、感謝の祈り 2 年実習 (幼稚園) 〈6 月 23 日 (金) まで〉 専攻科介護実習 I 〈6 月 12 日 (月) まで〉
		9 日 (金)	日本キリスト教教育学会第 52 回大会 〈6 月 10 日 (土) まで〉
		13 日 (火)	専攻科実習 I 予備日
		17 日 (土)	オープンキャンパス④
		19 日 (月)	1 年幼稚園保育体験準備 (全教員)
		24 日 (土)	はっぴい②
		26 日 (月)	1 年幼稚園保育体験 (全教員)、2 年実習予備日
7 月		5 日 (水)	2023 年度第 2 回サマーフェア かながわ高齢者福祉研究大会
		7 日 (金)	ナイトオープンキャンパス②
		8 日 (土)	オープンキャンパス⑤
		15 日 (土)	はっぴい③
		17 日 (月)	1 年前期授業終了 月曜日分授業日
		18 日 (火)	1 年前期定期試験①
		19 日 (水)	1 年前期定期試験②
		20 日 (木)	1 年前期定期試験③
		21 日 (金)	1 年前期定期試験④、専攻科前期授業終了
		22 日 (土)	1 年前期定期試験⑤、専攻科定期試験①
		23 日 (日)	オープンキャンパス⑥、和泉プレカレッジ①
		24 日 (月)	1 年夏期休業開始 〈8 月 27 日 (日) まで〉 専攻科前期定期試験②
		25 日 (火)	専攻科前期定期試験③
		26 日 (水)	専攻科介護実習 I (訪問介護) 〈8 月 5 日 (土) まで〉

8月	4日(金)	1年、専攻科成績報告書締切日
	5日(土)	オープンキャンパス⑦
	7日(月)	2年前期授業終了 専攻科夏期休業開始〈8月27日(日)まで〉
	8日(火)	2年前期定期試験①
	9日(水)	2年前期定期試験②
	10日(木)	2年前期定期試験③
	11日(金)	2年前期定期試験④
	12日(土)	2年前期定期試験⑤
	14日(月)	2年夏期休業開始
	20日(日)	オープンキャンパス⑧
	25日(金)	2年成績報告書締切日 おもちゃインストラクター養成講座
	26日(土)	オープンキャンパス⑨
	27日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	28日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、グループミーティング、オリエンテーション、前期再試験発表
	29日(火)	1年アセスメントテスト②
	30日(水)	2年実習授業、普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児) 専攻科医療的ケアⅡ集中講義〈9月1日(金)まで〉
	31日(木)	1年前期再試験〈9月1日(金)まで〉 専攻科前期再試験〈9月1日(金)まで〉
9月	2日(土)	はっぴい④
	4日(月)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)〈9月20日(水)まで〉 専攻科後期授業開始
	6日(水)	相模原市内高校長との教育研究会
	9日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月①
	16日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月②
	19日(火)	1年後期授業開始
	22日(金)	ナイトオープンキャンパス③
	23日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、アセスメントテスト②
	25日(月)	1年保育・福祉ふれ合い体験振り返り
	26日(火)	2年前期再試験〈9月27日(水)まで〉
	27日(水)	専攻科実習連絡会
	29日(金)	2年後期授業開始
	30日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月①
10月	7日(土)	はっぴい⑤
	11日(水)	2023年度第3回サンクスギビングフェア
	14日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月②
	16日(月)	召天者記念礼拝
	20日(金)	ナイトオープンキャンパス④
	27日(金)	オータムフェスタ〈10月28日(土)まで〉
	28日(土)	オープンキャンパス⑩
	30日(月)	宗教改革記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ〈11月25日(土)まで〉
11月	4日(土)	総合型選抜Ⅲ期11月①
	10日(金)	専攻科帰校日
	11日(土)	学校推薦型選抜[指定校Ⅰ期、公募、専門、キリスト者・キリスト教学校]
	15日(水)	実習指導連絡会(保育所・施設)
	18日(土)	はっぴい⑥
	25日(土)	総合型選抜Ⅲ期11月②、社会人特別選抜Ⅰ期

11月	27日	(月)	専攻科介養協学力評価テスト
12月	2日	(土)	学校推薦型選抜（指定校Ⅱ期）
	4日	(月)	アドベント礼拝
	9日	(土)	入学前教育① はっぴい⑦、はっぴいクリスマスコンサート
	11日	(月)	クリスマス礼拝
	13日	(水)	2023年度第4回クリスマスフェア
	16日	(土)	総合型選抜Ⅳ期12月、オープンキャンパス⑪
	19日	(火)	1年後期定期試験① 1年、2年、専攻科後期授業中断、冬期休業開始（1年・2年：2024年1月9日（火）まで、専攻科：2024年1月8日（月）まで）
	20日	(水)	1年後期定期試験②
	21日	(木)	1年後期定期試験③
	22日	(金)	1年後期定期試験④
2024年	1月	8日	(月) 専攻科冬期休業終了
	9日	(火)	新年礼拝 1年、2年冬期休業終了 専攻科学内テスト
	10日	(水)	1年実習授業 2年、専攻科後期授業再開
	12日	(金)	1年後期授業終了
	13日	(土)	1年後期定期試験⑤、入学前教育②、総合型選抜Ⅴ期1月、はっぴい⑧
	15日	(月)	1年保育実習Ⅰ（保育所・施設）（1月30日（火）まで）
	23日	(火)	2年後期授業終了 専攻科国家試験対策講座（26日（金）まで）
	24日	(水)	2年後期定期試験①
	25日	(木)	2年後期定期試験②
	26日	(金)	2年後期定期試験③
	27日	(土)	2年後期定期試験④、1年成績報告書締切日
	29日	(月)	2年後期定期試験⑤
	30日	(火)	専攻科後期授業終了
	31日	(水)	専攻科事例発表会 2年追再実習（2月21日（水）まで）
2月	1日	(木)	入学前ピアノレッスン①、専攻科後期定期試験①
	2日	(金)	専攻科後期定期試験②
	3日	(土)	和泉プレカレッジ②、専攻科後期定期試験③ はっぴい⑨
	5日	(月)	1年実習授業、後期再試験発表 専攻科後期定期試験④
	6日	(火)	2年成績報告書締切日 専攻科後期定期試験⑤
	7日	(水)	1年実習授業、入学前教育③
	8日	(木)	1年後期再試験（2月9日（金）まで）
	10日	(土)	総合型選抜Ⅴ期2月 オープンキャンパス⑫
	13日	(火)	1年保育実習Ⅰ（施設・保育所）（2月29日（木）まで） 専攻科成績報告書締切日
	15日	(木)	入学前ピアノレッスン②
	16日	(金)	2年、専攻科後期再試験発表
	19日	(月)	2年、専攻科後期再試験（2月20日（火）まで）
	24日	(土)	一般入試、社会人特別選抜Ⅱ期

2月	26日(月)	2年追再実習者再試験
	28日(水)	2024年度全教員打合せ会
	29日(木)	入学前ピアノレッスン③
3月	2日(土)	総合型選抜Ⅴ期3月 和泉スプリングコンサート、オープンキャンパス⑬
	4日(月)	1年実習授業
	6日(水)	入学前教育④、FD・SD研修会
	7日(木)	おもちゃインストラクター養成講座
	9日(土)	はっぴい⑩
	11日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	12日(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	30日(土)	オープンキャンパス⑭

(2) 実習

2023年	6月	5日(月)	～6月23日(金)	2年幼稚園
	6月	5日(月)	～6月12日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	26日(水)	～8月5日(土)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月	4日(月)	～9月20日(水)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)
	10月	30日(月)	～11月25日(土)	専攻科介護実習Ⅱ
2024年	1月	15日(月)	～1月30日(火)	1年保育実習Ⅰ(保育所・施設)
	1月	31日(水)	～2月21日(水)	2年追再実習
	2月	13日(火)	～2月29日(木)	1年保育実習Ⅰ(施設・保育所)

2024 年度 児童福祉学科 入試日程

入試区分	試験日 (選考日)	エントリー 期間	出願許可 判定教授会	出願 許可	出願期間	合格 発表日	判定 教授会	入学手続 期間
総合型選抜 Ⅰ期 9 月①	9/9 (土)	8/31(木) ～9/6(水)	9/11 (月)	9/12 (火)	9/30(土) ～10/6(金)	11/1 (火)	10/25(水) 〔追認〕	11/2(木) ～11/16(木)
総合型選抜 Ⅰ期 9 月② 愛の泉スカラシッ プ入試を含む	9/16 (土)	8/31(木) ～9/13(水)	9/20 (水)	9/21 (木)	9/30(土) ～10/6(金)			
総合型選抜 Ⅱ期 10 月①	9/30 (土)	9/19(火) ～9/27(水)	10/2 (月)	10/3 (火)	10/5(木) ～10/13(金)		11/13(月) 〔追認〕	
総合型選抜 Ⅱ期 10 月②	10/14 (土)	10/9(月) ～10/11(水)	10/16 (月)	10/17 (火)	10/19(木) ～10/27(金)			
総合型選抜 Ⅲ期 11 月①	11/4 (土)	10/23(月) ～10/27(土)	11/6 (月)	11/7 (火)	11/8(水) ～11/15(水)	11/22 (火)	11/29(水) 〔追認〕	11/22(水) ～12/6(水)
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅰ期	11/11 (土)	———			10/31(火) ～11/8(水)	12/1 (木)	11/13(月)	12/4(月) ～12/11(月)
学校推薦型選抜 キリスト教推薦								
学校推薦型選抜 公募推薦 専門高校推薦								
総合型選抜 Ⅲ期 11 月②	11/25 (土)	11/6(月) ～11/21(火)	11/29 (水)	11/30 (木)	12/1(金) ～12/4(月)	12/7 (水)	12/20(水) 〔追認〕	12/7(木) ～12/15(金)
社会人特別選抜 Ⅰ期	11/25 (土)	———			11/6(月) ～11/21(火)	12/1 (木)	11/29(水)	12/4(月) ～12/11(月)
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅱ期	12/2 (土)	———			11/21(火) ～11/29(水)	12/7 (水)	12/4(月)	12/7(木) ～12/15(金)
総合型選抜Ⅳ期 12 月	12/16 (土)	11/27(月) ～12/13(水)	12/20 (水)	12/21 (木)	12/22(金)～ 2024/1/5(金)	1/11 (水)	1/15(月) 〔追認〕	1/11(木) ～1/18(木)
総合型選抜Ⅴ期 1 月	1/13 (土)	1/5(金) ～1/10(水)	1/15 (月)	1/16 (火)	2024/1/17(水) ～1/22(月)	1/25 (水)	1/24(水) 〔追認〕	1/25(木) ～2/8(木)
総合型選抜Ⅴ期 2 月	2/10 (土)	1/31(水) ～2/7(水)	2/14 (水)	2/15 (木)	2024/2/16(金) ～2/21(水)	2/24 (金)	2/26(月) 〔追認〕	2/26(月) ～3/4(月)
一般選抜	2/24 (土)	———			2024/1/31(水) ～2/21(水)	2/28 (火)	2/26(月)	2/28(水) ～3/6(水)
社会人特別選抜 Ⅱ期	2/24 (土)	———			2024/1/31(水) ～2/21(水)	2/28 (火)	2/26(月)	2/28(水) ～3/6(水)
総合型選抜Ⅴ期 3 月	3/2 (土)	2/12(月) ～2/28(水)	3/4 (月)	3/5 (火)	2024/3/6(水) ～3/8(金)	3/11 (土)	3/13(水) 〔追認〕	3/11(月) ～3/15(金)

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース (保育士)

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成支援 センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2024 年 2 月末、 3 月中旬(予定)

3. 専攻科介護福祉専攻

1. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築

介護福祉士国家試験対策

- ① 介護協学力評価テスト(12月)
- ② 国家試験対策学内テスト(1月)
- ③ 学内国家試験対策(4日間)
- ④ 学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導

2. 実習の充実

- (1) 施設見学実習の実施
- (2) 学生個々に応じた実習指導の充実
- (3) 新カリキュラムに向けた実習内容を開始
- (4) 実習巡回指導の充実
- (5) 事例研究の指導
- (6) 事例研究発表会の開催
- (7) 事例集の作成
- (8) 実習連絡会の開催
- (9) 高齢者・障がい施設へのボランティアの充実

3. COVID-19 への徹底した防止対策

- (1) 教室の座席の固定化
- (2) 30分に1回の換気の徹底
- (3) 実習室を使用する場合の感染予防の徹底
 - ① 実習着、実習靴に着替える
 - ② 実技実習前後の手洗いの徹底
 - ③ 終了後の実習靴の足底の消毒
- (4) 以上の事項を非常勤の先生方への伝達

4. 高大連携授業

- (1) 積極的な高校への出前授業の受け入れ

5. 就業力支援

- (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (3) 特別講義の実施

6. 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
- (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
- (3) 青葉2丁目の町内会高齢者の方との世代間交流
- (4) 相模原市主催の市民大学の講師として参加し、地域貢献を図る

7. 共同研究の検討

4. キリスト教活動

1. 概要

建学の精神「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に働きかける。学生一人ひとりが聖書の教えを深く理解し、本学での学びを経て、神を畏れ敬う心と、隣人に仕える人格を有する保育・福祉実践者となることを目的として下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

本学を導いてくださる神様からの御言葉として下記の年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに記するほか、さまざまな場面で掲げ、学生及び教職員が常に心に留めて歩むようにする。

2023 年度年間聖句「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」

(ネヘミヤ記第 8 章 10 節)

3-2 始業礼拝

神様によって、学びと学生生活がすべて守られるように、前期・後期の始業時に礼拝をおささげる。

3-3 チャペルアワー

一週間の学び始めの月曜日に、キリスト教活動の中心として、毎週月曜日 2 時限にチャペルアワーをおささげる。聖書の御言葉に聴き、説教者や奨励者を通して語られる神様からのメッセージを聴き、賛美と感謝と祈りを通し、一人ひとりが建学の精神の具現化、スクールモットー「愛と奉仕」の実践者とされていくことを目指す。

年間を通じて、より多くの学生の出席を求めていくため、いくつかの授業とも連携していく。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝をおささげる。）

- 1) イースター礼拝（4 月 10 日）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 15 日）
- 3) ペンテコステ礼拝（5 月 29 日）
- 4) 召天者記念礼拝（10 月 16 日）
- 5) 宗教改革記念礼拝（10 月 30 日）
- 6) アドベント礼拝（12 月 4 日）
- 7) クリスマス礼拝（12 月 11 日）
- 8) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 11 日）

3-5 新入生研修会

4 月 7 日に新入生研修会を実施する。講演会（賛美とメッセージ）、及び宗教部オリエンテーションを通して、今後の学びの礎を培う。

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12月9日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 献金

チャペルアワーごとに、神様への感謝を表すために献金をおささげする。この献金は、神様への献身のしるしであることを認識したうえで、チャイルド・ファンド・ジャンのスポンサーシッププログラムへの参画と全国の児童福祉施設などへの支援に用いる。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ（I.C.F.）

学生たちがキリストの教えに親しむことを目的として集う和泉クリスチャン・フェローシップの活動を、毎月一度程度行う。

3-9 学生聖歌隊

賛美歌、子ども賛美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美奉仕する。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修学生によって、クリスマス礼拝、卒業・修了感謝礼拝などで賛美奉仕する。

3-11 教会紹介

掲示などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」、「キリスト教倫理」、「キリスト教社会倫理」の授業と連携する。

4. 2023年度の重点課題

4-1 「チャペルアワーを中心に捉えたキリスト教活動」

- ・「学生に、今届く言葉を伝えるチャペルアワー」とするため、説教者・奨励者には、その旨を予め伝えて依頼する。
- ・教職員に学生の中に入ってもらい、誠実に礼拝をおささげしている姿を学生に見せる。
- ・これまで同様、授業との連動を図りつつも、授業の課題と絡まないチャペルアワーへの主体的出席＝「チャペルアワーは出席するもの」という雰囲気を一層醸成する。
- ・一部の学年だけでも、授業がある時は（動画配信も含め）チャペルアワーをおささげする。

4-2 「再開可能な取り組みや活動の再開」

- ・COVID-19の影響で取りやめた取り組みや活動を、再開を念頭に計画する。
- ・具体的には、チャペルアワーで賛美歌の全節賛美、学生聖歌隊活動の再開、はっぴいクリスマスコンサート・和泉スプリングコンサートの実施など。

4-3 「キリスト教活動への学生の主体的参画」

- ・学生のチャペル委員の担当役割を引き続き明確化するとともに、チャペルアワーの受付のみならず、個々に得意なことを生かして能動的に携われるよう促していく。
- ・I.C.F（和泉クリスチャンフェローシップ）などの活動を充実させ、その中からキリスト教活動への学生の主体的参画の具体を模索していく。キリスト教活動が教育の柱であ

るとの認識を全学で共有する。

- 建学の精神に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に伝え働きかける。
- 学生の授業期間は、チャペルアワーをおささげする（動画配信のみも含む）

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 学長

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟、日本臨床死生学会 他

大 下 聖 治 教授

【研究課題】

1. 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム(継続)
2. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
3. 指導技術(コーチング)の習得に関する研究(継続)
4. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 乳幼児期の発達に効果的な運動・遊び・環境構築について、学生個々が理解を深め、基本的な援助技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
2. 保育・福祉の現場で必要となる体力的要素の養成とサポート
3. 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的に関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
4. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成

【学会参加予定】

1. 日本体育・スポーツ・健康学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
2. 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員
苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。
3. 座間市総合戦略推進懇話会委員
座間市総合戦略で掲げる重要業績評価指標の進捗状況の検証及びその評価等を行う。

武 石 宣 子 特任教授

【研究課題】

1. リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏・プラスチック・アニメを含む)

に関する研究

2. プラスティック・アニメの研究

(子どもの歌を題材、小道具＜フープ・ゴム・スカーフ等々＞を用いて)

3. 子どもの歌の簡易伴奏法の研究

(レベルに合わせたアレンジ法、前奏後奏の工夫)

4. コロナ禍における表現型教科目の効果的な指導法及びシラバス研究

(教科目『リトミック』)

5. リトミックに関する教材研究

6. 動きの為の即興：声・身体・楽器を用いての誰でも簡単にできる工夫

(グリッサンド・2音列・ドレミファソラシド・全音音階・黒鍵・魔法・びっくり音・イメージ音楽等々)

7. 動きのイメージが広がる音楽環境に関する研究

【教育課題】

1. リトミック（選択教科目）の授業内容、授業運営の工夫

2. 親子リトミック（親子ふれあい遊び、子育て支援）の指導方法の充実

3. 1コマ105分導入による授業展開の工夫

4. 入学前教育におけるリトミック教育の意義

【所属学会等】

大学教育学会 日本保育学会 日本音楽教育学会

日本ダルクローズ音楽教育学会 大学音楽教育学会

日本乳幼児教育学会 日本キリスト教社会福祉学会

日本保育者養成教育学会 初年次教育学会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」（その3）

継続研究として、テーマ設定の変更：「子どもの遊びの充実と中心性（拠点）について」（その3）関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」「幼児期の遊びと学びの相関関係—アクティブラーニング時代の幼児教育の意味」

2. 幼児期における両義的認識の発達過程について

3. キリスト教保育の現状と課題

「キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 2021年度内発行予定：研究委員会委員長

4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2015年まで）

5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）

6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）

7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題

8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題（テーマ「施設化する生」の継続的研究）

9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性—保育原理・教育原理における実践と省察—」

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢

献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求（キリスト教教育）

11. 子育て支援を軸にした総合的地域連携支援の在り方の探求

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2 年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに関連させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論（潜在性と教育的配慮の真実性）を明確に学ばせる。
3. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。
4. 保育者養成校としての短期大学における学びの協同性の機会を構築し、学年・クラス・グループの枠を超えた対話的学習を促していく。
5. 実務経験を生かした授業内容の構成、特に「保育内容・人間関係」における実践的考察を通じて、自らの生き方、保育者としての生き方を探求する。

【参加予定学会等】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会（文科省重点課程研究）
10. 全国保育士養成協議会（平成 29 年度第 56 回大会） 実行委員
11. 日本キリスト教教育学会第 35 回学会大会（2023 年 6 月）準備実行委員・委員長

【地域貢献】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員
5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校（特別支援学校）：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事

10. 社会福祉法人相模和泉福祉会和泉保育園：理事

11. 社会福祉法人横浜 YMCA 福祉会：評議員

【その他委員会等】

1. 教務委員会の部長として、これまでの沿革を尊重しつつ、より豊かな「教育一学修」環境の整備に努めてきた。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業において、他の授業における可能性を探りながら、2023 年度も模索し、立案する。
2. また、2023 年度は地域連携推進センター長・図書館長としての役を担う。まずは現行の子育て支援の在り方を抜本的に捉え直し、子どもと母親を支援の中心に起きつつ、(被支援ではなく支援者として)小学生から高齢者を巻き込んだ新たな支援活動を工夫することで、子育て支援を軸にした総合的地域連携支援を具現化し、革新的な地域連携・支援を社会に提示することで地域の活性化と本学のアドミッションの充実した遂行をしたい。またこれらの活動を通じて、保育のみではなく介護職への関心を学生に促していく。
3. 図書館の利用率が低いことは全国的な傾向。オープン・ライブラリーの構想を図り、単に「本を読む・借りる、自習する」空間イメージを超越した学生と地域の開かれた親しい・利用しなくなる空間イメージが定着するような工夫をする。

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. 優れた社会福祉実践家についての人物研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な人に寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 専門性より関係性を旨に、保護者も含め良い関係を築ける保育者・支援者養成

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本キリスト教社会福祉学会

松 山 洋 平 教授

【研究課題】

1. 乳幼児期の子どもたちの環境とのかかわりの重要性・可能性を再考する
2. 保育の質をもたらす組織の質、自立型組織の成長モデルの指標構築に関する研究
3. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育内容・環境（指導法）」における、さらなる A L の開発と内容の充実。
2. 担当科目との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組み。
3. サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組み。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会

【社会的活動】

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会理事
2. Will とともに語ろう（和泉短期大学学生・卒業生研修会）
3. 荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
4. 荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
5. ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
6. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
7. キャリアアップ研修講師（相模原市・横浜市・認定こども園連絡協議会）
8. 預かり保育担当者研修講師（横浜市幼稚園協会）
9. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
10. 大田区公立保育園公開保育研修講師
11. 足立区年齢別研修講師
12. 社会福祉法人鉄道弘済会研修会講師

山 本 美貴子 教授

【研究課題】

1. 担当授業「保育内容表現」「保育内容の総合指導法 音楽表現」は、「創造的表現活動」を主軸にしているが、コロナ禍の感染対策によりグループでの創作活動を個人活動に変更する等、従来の授業内容から見直しを行った。この3年間で改めて個々の創作活動の良い点を確認したので、さらに授業内容研究を進めたい。また2020年度～の過程を感染予防対策下での授業実践事例として残したい。
2. 子どもと学生や保護者が、声・音・言葉・動き・表情などにより音楽的にコミュニケーションする事例の観察研究を目指し、適切な時期に機会を探したい。

【教育課題】

1. 2021年度から、前期「保育内容表現」、後期「保育内容の総合指導法 音楽表現」に改編。表現系授業を1年間毎週継続し、前期は主に理論と表現全体に関する科目の学びから、後期はより音楽に特化した専門的・実践的保育方法の学びへとステップアップする学習が可能となっている。
これから数年間は、本学1年次科目「子どもと音楽」（前島麻衣助教担当）と「音楽表現」のコラボ方法を共同研究し、歌う・奏でる・創る・繋がるを柱に、子どもの主体的な表現・音楽あそび・活動に関わる保育実践力を養う、本学ならではの学修プラン・モデルを構築したい。
2. 近年の日本の音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸に、さらに個々の学生の知識と個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により、引き続き学生の学習段階・学習成果の可視化を工夫したい。
3. 2020年度～3年間、コロナ禍での演習授業における音楽的なやりとり・創作活動・発表方法と感染予防対策が両立する授業内容を模索した。学生の発表内容・授業アンケート等により、従来と同等の学習成果を確認している。
2023年度は単にコロナ前の授業内容に戻すということではなく、改めて確認した個々の創作

活動の良い点を生かし、より良い授業実践を目指す。

4. 学生委員会から教務委員会への所属変更に伴い、委員会、教育・学習支援ユニットの業務について理解を深め、建学の精神「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を柱に、カリキュラムポリシーに沿ってこれまで構築された一人一人の個性を大切に多様性を生かし協同的に学ぶ本学の教育内容の更なる充実に資するよう務める。
5. 特に 2022 年度から始められた「入学前教育の充実」について、オリジナルテキストの編纂により学びのスタートを支援するプログラムの構築、入学前教育から大学教育、そして卒業後、地域・社会の保育・福祉に貢献する専門職・リカレント教育へと繋がる本学ならではの養成教育の実現を目指す。

【学会参加予定】

1. 日本キリスト教教育学会（第 35 回大会運営委員）
2. 日本保育学会
3. 日本乳幼児教育学会
4. 日本音楽教育学会

矢 野 由佳子 准教授

【研究課題】

1. 保育者の感情制御と保育スキル、職場風土が保育者効力感へ与える影響に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接する保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

中 野 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく
4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 県立さがみ緑風園第三者委員

2. 相模原市市民オンブズマン
3. 相模原市指定管理者選考委員会委員長

久 保 小枝子 准教授

【研究課題】

1. 絵本やおもちゃが乳幼児の発達に与える影響を継続して研究
2. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究
3. 子育て支援のあり方についての研究
4. 現職教育（幼稚園教諭、保育士）の育成-保育の質の向上を目指して-

【教育課題】

1. さまざまな授業を通して、基礎学力が身につくように指導する。
2. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
3. 「保育内容の総合的指導法 言葉」「保育内容総論」「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
4. 学生の学習環境についてアンケートや聞き取りを行い、より質の高い充実した環境整備を学生と共に探る。
5. 地域の子育て支援プログラム、子育てひろば「はっぴい」「すまいりい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供する。学生が計画案作成、実践及びその振り返りを通して、主体的に学ぶ機会を支援する。おもちゃや造形活動など学生と教材研究を行い、保育技術習得の支援に努める。
6. 学生が自分の適正に合った保育、福祉の就職先を選択するための指導に力を注ぐ。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どものための芸術と遊びフォーラム

【社会的活動】

1. 大学・短期大学基準協会認証評価 評価員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』『実践からの学び』執筆
3. 相模原市保育士キャリアアップ研修講師
4. 横浜YMCA県内14園ある保育園のスーパーバイザー
5. さがまちカレッジ講座講師
6. 相模原市私立・認定こども園協会研究推進部研修会「子どもと共に育つ保育者」講師（年9回）
7. こひつじ文庫アドバイザー

八 代 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 食物アレルギーを有する子どもへの対応の検討

食物アレルギー対応に関する先行研究から、保育者に必要な食物アレルギー対応スキルについて検討をする。

2. 保育現場における保育者と看護師の連携～保育者・看護師の専門性に視点を当てて～

保育者・看護師の専門性に関する先行研究から、保育現場における保育者と看護師の連携について検討をする。

3. 乳児とモノの出会いとかかわりに関する研究

ポートフォリオの分析を通して、保育現場において乳児はどのようにモノと出会い関わるのかについて検討する。

4. 保育者の成長に関する研究

保育者の意味づけに視点を当て、保育者養成校段階・新人保育者・ミドルリーダーなど各段階における保育者の成長について研究を進める。

【教育課題】

1. 子ども理解を深める教材研究

子ども側から子どもの世界を感じ見ることを通して、子ども理解を深め自身の保育を振り返ることのできる教材研究を進める。

2. 食物アレルギーを持つ子どもの理解と援助に着目した授業内容の検討・教材研究

【研究課題1】を踏まえ、「食物アレルギーを持つ子どもとのかかわり」に関する授業内容の検討・教材研究を進める。

【所属学会等】

1. 2008 年 4 月～ 日本看護協会
2. 2008 年 11 月～ 日本医療保育学会
3. 2011 年 4 月～ 日本保育学会
4. 2012 年 7 月～ 日本乳幼児教育学会
5. 2012 年 9 月～ 日本発達心理学会
6. 2013 年 6 月～ 日本小児保健協会
7. 2013 年 7 月～ 日本保育保健協議会
8. 2016 年 9 月～ 日本保育者養成教育学会
9. 2016 年 10 月～ 保育教諭養成課程研究会
10. 2017 年 6 月～ 日本学校保健学会
11. 2021 年 8 月～ 日本乳幼児教育・保育者養成学会
12. 2022 年 6 月～ 日本質的心理学会

和 寺 悠 佳 准教授・チャプレン

【研究課題】

1. キリスト教学校における伝道に関する研究
2. 日本におけるキリスト教神学の受容と展開、および教会形成に関する研究（明治期の日本組合基督教会を主たる対象とする）
3. 日本のキリスト教会の背景としてのアメリカ神学、教会史に関する研究（会衆派を中心とする）

【教育課題】

1. チャペルアワーにおいて、イエス・キリストの福音を正しく伝え、建学の精神であるキリスト教信仰を指し示すことにより、学生が本学での学びの基盤を形成できるように努める。
2. キリスト教科目の授業において、聖書の福音、建学の精神を教導することを通し、学生がキリスト教信仰に対して主体的に向き合い、神から与えられた自らの使命を問うように促し、保育・福祉のよき担い手の養成に資する。

【学会参加予定】

1. キリスト教史学会
2. 日本基督教学会
3. 日本思想史学会
4. 横浜プロテスタント史研究会
5. 日本近代史研究会
6. 日本キリスト教教育学会

【社会的活動】

1. 日本基督教団教務教師
2. 明治学院大学キリスト教研究所協力研究員
3. 学校法人フェリス女学院評議員

中 安 恆 太 准教授**【研究課題】**

「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を家庭養護と位置付ける意義と課題」

近年、日本においては家庭養護（里親やファミリーホーム等）の促進が図られているが、ファミリーホームは、第2種社会福祉事業のため施設的な側面があり、里親と比較すると公的支援の活用が限られている。そのため、養育者の負担が増えることが予測される。昨年度、ファミリーホーム制度が成立した背景と、養育者の考えるファミリーホーム養育の意義と課題を整理したため、本年度は必要な支援を考察する。

【教育課題】

担当科目では、学生が施設実習や現場実践に役立てる知識・技術・倫理が得られよう分かりやすい授業を展開する。具体的には、テキストに書かれている内容を落とし込むための資料提供やDVD視聴、グループワーク等を行う。また、虐待やヤングケアラー等、子どもやその家庭を取り巻く環境が複雑化しているため、その問題解決のために必要な支援を探求する視点を養う。

【社会的活動】

1. 相模原市子どもの権利相談室 救済委員
2. 相模原市社会福祉審議会 委員
3. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童部会 部会長
4. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童虐待検証部会 委員
5. 社会福祉法人ル・プリくるみ会事業本部 オンブズマン
6. 社会福祉法人みのり会 監事
7. 社会福祉法人グリーン 選任解任委員

8. 東京都養育里親登録

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本子ども家庭福祉学会
3. 日本子ども虐待防止学会

横 地 厚 准教授

【研究課題】

1. 地域福祉推進における人材育成と主体形成に関する研究
2. 東日本大震災における被災地支援に関する研究
3. 社会的孤立に関する研究

【教育課題】

1. 保育士・幼稚園教諭養成課程における社会福祉・ソーシャルワーク教育を展開する。
2. 子どもの権利擁護者としての意識を高める。
3. 地域貢献活動への支援に取り組む。

【学会参加予定】

1. 日本地域福祉学会
2. 日本社会福祉学会

吉 田 久仁子 専任講師

【研究課題】

1. キリスト教保育の担い手としての理事会に関する研究
2. 3.11 を通して、教会と教会幼稚園が果たした中間集団としての役割についての研究
3. 保育者の人間関係についての研究-子ども・保護者・保育者-
4. 厚生省事務官として玉川保母専門学院開設に関わり、後に和泉短期大学教授となった副島ハマと和泉短期大学創設時から保育原理を担当したドイツ人宣教師であるゲルトルート・エリザベート・キュックリヒ教授の保育思想と関係性が戦後日本の保育に与えた影響に関する研究

【教育課題】

1. 東日本大震災・原発事故の経験を通して、保育者のあるべき姿について学生と共に考える。
2. 社会福祉法人ちいろば会（日本キリスト教団原町教会）と和泉短大、南相馬市との連携協働により地方と首都圏の人的交流と質の高い保育者人材育成に取り組む。具体的には被災地のスタディーツアーと社会福祉法人ちいろば会保育施設でのインターンシップを実現する。
3. 保育現場の映像やエピソードを交えて、保育の理論と実践が結びつく講義を展開し、学生自身も保育を語れるように演習を積み重ねる努力をする。
4. 学生が実習園だけではなく、多くの保育現場に触れられるよう Web 会議システムを活用しながら園長や保育者とディスカッションできるような授業展開を考えていきたい。

【社会的活動】

1. 被災地スタディーツアー企画
2. 東日本大震災と原発事故後の帰還困難地域や避難指示解除後の地域など、被災地の生の現場

を見るとともに復興に取り組む様々な立場の人たちの話を聞き考える。

3. いずみ祭にて福島県産品の紹介
4. 小規模保育園と保育園でのフィールドワーク
5. 一般社団法人 Tobacco-free ふくしま イエローグリーンキャンペーン＝受動喫煙をしたくない・させたくない

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本子ども虐待防止学会
4. 地域安全学会
5. OMEP 日本委員会

星 早 織 専任講師

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究
2. 保育者養成における学生の成長プロセスに関する研究
3. 子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力しながら知見を広げられるような演習授業を設定する。
2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身につけられる授業を構成する。
3. ICT化が進む保育現場の現状に合わせ、実践現場で生きるスキルを身につけられるような授業内容を目指す。
4. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 日本社会福祉学会

前 島 麻 衣 助教

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について
保育現場の音のあり方について研究を深めていく
2. 幼児の音楽表現を支える保育者について
学生の授業と実習での経験から、幼児の音楽表現を支える保育者に必要なことから、学生に必要な学びを考えていく
3. 養成校で学ぶ学生の音楽経験について
「学生の音楽歴や音楽に関する調査研究」

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について
2. 学生の実習準備の支援方法について
3. 聖歌隊の取り組みについて

中山 恭一 助教

【研究課題】

1. 統計手法及び ICT 活用の教育手法の可能性
2. 保育内容「健康」と「体育理論」との教材連携に関する探究
3. ライフステージに応じたコンディショニングと運動プログラムの開発
4. 運動遊び・体育・スポーツからみる配慮の必要な子ども達への発達支援研究

【教育課題】

1. 体育・スポーツの専門分野からなる科学的根拠を基に実践出来る保育者養成
2. 相手を尊重し寄り添う関わりを大切にする学生サポート
3. 健全な心身を併せ持つ人材育成
4. 分かりやすく、身につき、実践出来る【保育内容「健康」】及び「同領域 総合的指導法」の実践授業研究
5. 生涯スポーツへの円滑な移行
6. 配慮の必要な子ども達が必要とする運動遊び・体育・スポーツのあり方について

【学会参加予定】

1. 日本体育学会
2. 日本保育学会
3. 子どもとからだと心・連絡会議
4. 日本発達発達学会
5. 日本幼少児健康教育学会
6. 日本学校保健学会
7. 日本保育者養成教育学会
8. 日本統計学会

杉田 美香 助教

【研究課題】

1. 保育者・子育て支援者のアイデンティティについて
2. 保育者を目指す学生が、実習等を通じて成長する過程について

【教育課題】

1. 保育実習・教育実習指導においては、学生の思いを理解し、共有して、実習に取り組むことができるようにする
2. 保育者を目指す学生が、保育の意義、役割を学び、それに即した行動と、本人ならではの保育が実践できるようになるための意識を持てるようにする。

【学会参加予定】

1. 日本発達心理学会

2. 日本保育学会
3. こども環境学会

専攻科介護福祉専攻

佐 藤 美 紀 准教授

【研究活動】

1. 障害者施設における介護福祉士の役割について
2. 地域における認知症周知活動の実態調査（中学生の認知症講座から）

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究活動】

1. 障害者施設支援における対象者のアセスメントの導入のあり方
2. 高齢者施設における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

中 野 志津江 特任助教

【研究課題】

1. 保育士の国家資格や幼稚園教諭の資格を取得している学生を対象として死生観についての研究

【教育課題】

1. 医療職との連携のもとに医療的ケアを安全に適切に行う為の知識と技能を習得できるよう学生目線で授業の工夫を図り、繰り返し学習しながら学び合えるように努める。
2. ライフサイクルの各期の身体、心理、社会的特徴を踏まえた上で、老化に伴う変化と高齢者に多い疾病や障害について理解し、日常生活への影響についてイメージできる授業の工夫を図る。
3. 人体の構造や機能、こころやからだのしくみなど基礎的な知識を理解した上で、加齢による身体機能や心理的、精神的機能の低下及び障害が日常生活動作や暮らし方にどのように影響するのかを考え、援助に結びつけて理解できるよう努める。
また、イメージしやすい資料等の工夫を図る。
4. 終末期の身体的変化や死後の身体変化を理解できるように教授法を工夫する。死にゆく人とその家族に対して死の受容過程を学び、様々な死生観を通して、支援のあり方やグリーフケアについて考える。またお互い学び合い、対象の尊厳を尊重する態度やコミュニケーションについて自ら気づけるよう努める。
5. 学生がより質の高い充実した実習ができるよう実習準備を行い、実習環境を調整し、学生の不安の軽減に努め目標の到達に向けて主体的に学べるよう学生と共に考え、支援する。

【学会参加予定】

1. 日本リハビリテーション看護学会
2. 日本看護学会
3. 日本臨床死生学会
4. 日本介護福祉教育学会

【社会的活動】

1. 学校法人 鶴嶺学園 評議員

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 山本 美貴子）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2023年度は、「和泉短期大学第2次中期計画」を踏まえ、下記の点を重点的に取り組むこととする。なお、2023年度の授業運営も引き続き COVID-19 の感染状況を鑑みながら、安心・安全対策に柔軟に対応しながら、教育内容の質の担保に努める。以下の計画は関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ① 2021年度に3つのポリシーの明確化と共に「5つのコンピテンシー（ディプロマサブリ）」「和泉の10の力」をループリックの中で一体的に総括した。これを踏まえ学習成果の可視化（ICT化）を具体化する。2021年度新たに再整備したカリキュラムツリー（専門科目系統ナンバリング）とアセスメントプランを基に、2023年度は本学における学びの道筋と学習効果可視化を具体化した学習成果の可視化に伴うシステムの本格的導入によって、学生が自覚的・主体的に学習に取り組めるような態勢を強化する。

② 学習環境の整備と組織的運営の構造整備・改革

学習支援環境の充実を図るため、アセスメントテストを2020年度に導入した。学生の学習環境の実態を把握し、そのアセスメント結果を授業担当者別かつアドバイザー別に結果を開示し、かつ導入業者からの結果説明も受け、可視化システムと合わせて授業運営の手立て【往還型の授業への取り組み】となるよう授業改善の促進をする。

また、離学希望者の学習生活での躓きの要因を探り、具体的な手立てを講じる。

③ 教育内容の体系化の充実

（上記ループリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用）

④ 新たな教育方法の導入に向けた継続的な取り組み

- ・ 1時限の授業時間15分拡大(105分授業)／前期・後期、各期13週 2021年度開始に伴う省察アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL））等の促進
授業担当者に対する往還型学習の促進 GoogleClassroom と可視化システム併用と活用
- ・ 「学修成果の可視化システム」を用いた、授業到達目標と授業等に向けた自己の取組に関するアンケート調査と実績分析
- ・ アンケート調査の開始(2019年度)と実績分析
- ・ ラーニングセンターwill の運営管理
- ・ 非常勤講師のオフィスアワーの明確化
（オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価）
- ・ COVID-19 感染への徹底した防止対策に基づく教育方法の促進
有事の場合のオンラインのみの授業配信(在宅配信・在宅受信型授業)の模索
- ・ ICT 教育環境整備委員会との連携と教育内容の質の担保
（オンライン授業(GoogleClassroom・Zoom・YouTube アプリケーション)の有効活用)

・1, 2 年生交流授業の促進

短期大学+保育者養成校の宿命か、カリキュラムが詰まった状態で、クラス（授業クラス・アドバイザークラス）、そして学年等の枠を越えた交流が非常に少ない。また COVID-19 感染予防に基づく学生生活も一因となっている。「学び合うー教え合う共同体」を組織的に促進する機会を作る必要がある。2023 年度はこの具体案を模索し、具現化する。

⑤実習教育を中心としたサービ斯拉ーニングのあり方の検討

実習教育との協働を図るため、実習サポート委員会と連携する

⑥ハード面における環境整備の提案

- ・ COVID-19 感染拡大予防に対応した教室環境整備
- ・ 教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学習室（カフェ化）
- ・ IT 教育環境の整備（学生ホール・及び IT 関連授業の教室環境整備 4 号館 A-1・A-2 教室へのインターネット回線及び Wi-Fi の導入）
- ・ 上記①～⑥を踏まえ、学習効果の可視化を目的に、学生の学習、教員の授業効果の ICT 化と共に、学習環境の質的变化を実現させる。

⑦障がい、その他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討

（「障がいのある学生等修学支援委員会」との協働）

- ・ 2022 年度生は 2022 年 4 月の段階で、35 名から特別な配慮を要する支援要請があった。支援の在り方は個別対応が求められているため、上記委員会と協働しつつ、丁寧な対応が必要。
- ・ 2023 年度生に関しては、1 月の第 2 回入学前教育で提示（第 3 回入学前教育時提出予定）

⑧キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill、及び PC 教室（212）の使用方の検討を含む各目的別支援員の配属と職務内容の確認（学習成果の可視化に伴うシステム導入の関連とスムーズな運営のための人材確保）

⑨「職業訓練委託生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。
- ・ 2022 年度は本委託生（いずれも 2022 年度生）の離学が目立った。
2023 年度も引き続き、社会人学生なりの学びづらさ等に丁寧に向き合うことが必要。

⑩「社会人学生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑪研究活動の充実

- ・ 教員の学務への対応が煩雑になり、研究活動の時間確保が困難になりつつあることは、継続的な課題となっている。また研究費・教材費の使用期間も同様。年度末は 2 月中旬から下旬まで実習巡回指導、及び事後指導も行われるため、教育期間は 2 月末までにもかかわらず、現行では、研究費・教材費が 1 月末までの締め切りとなっており矛盾する。また実際には専門領域の研究も担当科目の次年度の教育研究・教材研究もこの時期から新年度にかけて行うため、この 2 項目の費用の使用を 3 月第 2 週までと変更する必要がある。
- ・ 2023 年度も働き方改革に伴い、研究のための一定の期間と時間が確保されるよう、学事を工夫する。
- ・ 2021 年度より 105 分 13 回授業運用を実現。FD を通じて本運用の実践について、省察する機会をもつ。

- ・ COVID-19 の感染状況にかかわらず、新たな教育（授業）方法【ICT 化】に向けた取り組みの実践的授業研究を促進する。特に 2023 年度より本格的導入となる「学修効果の可視化システム」の応用に関する教育の質的研究を促していく（『教職研究』へ）
- ・ 研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、研究調査倫理（詩的財産、知的財産、個人情報保護）の徹底。

⑫全教員打ち合わせ会の充実

2023 年度の本学の教育方針・理念や建学の精神等の再確認。

アクティブラーニングをさらなる促進。

⑬市内高校校長との教育研究会

学内の教育体制は高く評価を受けてはいる。本学の教育への姿勢に限らず、「教育」へのコンセンサスを図る良い機会を設けることができていた。2022 年度は 3 年ぶりに実施でき、本学の教育内容と高校での学びの連続性に関する可能性をさぐることができた。2023 年度のさらなる連携強化とコンセンサスを得る機会とする。

⑭ティーチング・ポートフォリオ、及び学修成果の可視化システムの構築

アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整。（特に、ティーチング・ポートフォリオに関しては、補助金申請委員会と連携）

(2) 学びの組織的支援

①ICT 化への取り組みと共にポートフォリオの更新と取り組み内容・方法の工夫

ICT 教育環境整備委員会と協働し、オンライン、オンタイム授業の促進サポートのみならず、ICT 化に伴う全ての業務を一本化し組織的総合的なサポートが可能な体制を構築する。

②保育者養成（幼稚園教諭・保育士共に）のカリキュラムについて、特に現場実習中止に備えて、学内実習教育を再構築し、保育者養成の質を担保する。

③中途退学（離学者）防止に向けた取組みの充実（「離学者改善検討委員会」との協働）

④キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill 支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関するカリキュラムの検討（キャリアデザインⅠⅡへの授業化。リメディアル教育を含む）と共に 2022 年度アセスメントテストによって、1 年生では前期の授業を受けて学習意欲が低下する学生も多く出ていた。また、「将来のイメージの有無」や「授業内容の理解度」が、退学意向に大きく影響している反面、成功体験が学習のモチベーションアップに繋がっていることから、具体的な学習支援策を検討していく。「学びのマネジメント WG との協働」)

⑤入学前教育の内容更新と充実（方法・内容等の再検討）

12 月期に総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期合格者対象の第 1 回入学前教育を実施し、12 月から 3 月までに 4 回構成のカリキュラムを構築し開催する。また、和泉オリジナル版『入学前教育』（仮称）テキスト発刊を目指す。

⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学習の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映、また、学習成果について、学びのマネジメントWG と連携を図り学生が理解しやすい可視化のあり方を探る。また、学修成果の可視化システムの導入により、各科目の授業到達目標の学生理解度も把握できるようになることから、その結果を教育実践の向上に向けた教育カリキュラムの改善への手がかりとする。

⑦学びの組織的支援充実のための構造整備（教務委員会下部組織の整備と確認）

⑧学習時間の保障を軸に、シラバス作成要項（方針）を綿密に作成し、講義・演習の組織的な運用を目指す。

⑨初年次教育(大学におけるスタートカリキュラム)のあり方を模索する(下記 (4) -②⑥を含む)。

(3) 学習の評価

①アセスメントプラン策定に向けた検討

②学習ルーブリックに関する検討（2020 年度：試験的運用 2021 年度：完成年度）

③自主的な学習の評価に関する検討（ルーブリックポリシー〈仮名〉の検討）

④成績評価の厳格な運用の推進

⑤学習成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

①学校間連携の充実(保育士養成施設協議会、日本ソーシャルワーク教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)

②高大連携プログラムの充実（聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等）

③産官学連携のあり方の検討（日本保育協会神奈川支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、相模原市高齢者福祉施設協議会 等）

④地域連携のあり方の検討（地域連携推進センター委員会と協働）

⑤専門職団体等との連携の充実（キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会等との協働によるキャリアパス＜キャリアアップ講習＞の具体的構築 下記 (5) -①と関連）

⑥保証人との連携の充実（保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携）

⑦保育実習指導者研修への参入（全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課）

(5) 生涯教育

①リカレント教育の充実（卒業生の現任訓練としてのリカレント講座および潜在保育者である卒業生の再教育としてのリカレント講座開催の検討）

②大学公開講座の充実（相模原市との共催 等）

(6) キャリア教育の推進

①キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「学びのマネジメントWG」との協働）

②資格取得支援（保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他）

③喀痰吸引等研修のカリキュラム化（選択科目）の検討

④教育・保育ソーシャルワーカー中級（仮）資格設置の検討

⑤「保育ふれ合い体験（保育園）」・「福祉ふれ合い体験」・「幼稚園保育体験」のカリキュラム化と体験の充実化

⑥休日月曜授業日の「ホームカミング」としての積極的活用の検討

(7) FD 活動の充実

①自己点検・評価報告書の作成（「自己点検・評価委員会」との協働）

②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討(ICT 教育の内容と方法の検討含む)

③学生による授業評価の活用方法の検討（回数、時期、方法、結果の提示方法）

④教員懇談会・教職員懇談会の開催

⑤全教員参加のFD 研修会開催（「ファカルティディベロップメント委員会」との協働）

- ⑥学生 FD 委員会活動への支援
- ⑦アセスメントテストの活用法
- (8) 教員の交流と研究活動の支援
 - ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
 - ②教員の研究活動の推進
 - (研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等)
 - ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討
- (9) 情報公開・情報収集の推進
 - ①自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
 - ②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）
 - ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）
 - ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）
- (10) 『教職課程』

講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を兼ね、論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。
- (11) 「105 分授業におけるアクティブラーニングの促進」と「各実習実施期間」への工夫を促進
 - ・従前の 90 分授業と比較して、アクティブラーニングが実施しやすくなった。より実務的な学びとするために、AL の一層の促進が必要。
 - ・アクティブラーニング実施調査を成績報告時に行う。
- (12) 2023 年度授業運営の見直し

COVID-19 感染拡大状況に依拠するが、2023 年度の授業運営は、全対面授業を実施する。ただし、感染状況によっては、オンライン授業も併用できるよう、2023 年度も引き続き Zoom のアカウントを保持する。

学生委員会（学生部長 横川 剛毅）

1. 学生生活の支援に関する業務

- (1) 学生への教育内容・連絡事項の周知に関する業務
 - ①学生サポートブックの編纂
 - ②掲示板での周知
 - ③H P・GoogleClassroom での配信
- (2) アドバイザーによるグループ指導の支援に関する業務
 - ①キャンパスライフアワー・グループミーティングのスケジュール管理支援
 - ②学生カードの受付・管理・個々の状況や指導内容の共有
- (3) スクールバス利用に関する業務
 - ①利用マナーの向上を目的にスクールバス利用登録制度を実施
 - ②快適な車内環境に関する連絡・調整
 - ③スクールバス車内の学生対応・指導に関する支援（情報共有・乗車指導等）

2. 学生の健康に関する業務・・・健康管理センター運営委員会・障がいのある学生等修学支援委員会

(1) 健康管理センターに関する業務

- ①保健室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ②学生相談室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ③学生の利用ルールの周知
- ④グループアドバイザー・各委員会との連携（入学時健康状況アンケート特記事項共有など）
- ⑤健康教育の立案・調整・実施

(2) 健康診断に関する業務

- ①学事予定における日程調整
- ②担当病院との連絡・調整・支援
- ③各委員会・ユニットとの連携
- ④学生への当日の手順・ルールなどの周知
- ⑤健康診断結果の配布・調整

(3) 普通救命講習Ⅲに関する業務

- ①年1回平日開講に関する学事日程の調整
- ②委託先との日程調整・連絡・支援
- ③学生への周知・受講に関する支援

(4) 障がいのある学生等修学支援に関する業務

- ①申請書の受付
- ②障がいのある学生等修学支援委員会の召集（日程調整・連絡）
- ③申請内容・支援内容の検討
- ④教務委員会・グループアドバイザーとの連携（依頼書の作成・情報の提供）

3. 感染症（新型コロナウイルス感染症等）に関する業務

(1) 感染症対策に関する業務

- ①感染症の情報収集
- ②感染症（対応・拡大予防対策）に関する学内のルール・フローチャートなどの作成・周知
- ③感染症に関する情報の周知（HP・GoogleClassroom）
- ④感染症対策のための学内の環境整備の検討・周知
- ⑤ワクチン接種に関する業務（情報収集・学生の状況調査・周知など）
- ⑥体調不良・自宅療養学生の相談支援（電話・メールなど）と情報共有

(2) 体調に変化がある学生に関する業務

- ①体調不良・検査受診学生の連絡窓口・相談・指導
- ②本学教職員、特別対策委員会・危機管理委員会などへの情報提供・連携
- ③感染者発生時の行政などへの報告・HPでの情報公開

4. 進路支援に関する業務・・・就職委員会

(1) 授業「キャリアデザイン」に関する業務

- ①年間スケジュールの立案・教務委員会との連携（一般教養試験対策講座など）
- ②学事における日程調整
- ③委託先への依頼・日程内容調整

④教室・担当者の決定・周知

⑤提出レポートの管理・アドバイザーとの連携

(2) 就職支援に関する業務

①学生への進路に関するルールの周知（サポートブック・キャリアデザイン）

②学生への求人情報の開示（進路支援センター内・サイト）

③就職試験に関する支援・相談・指導

④就職先へ募集要項受付の案内発送・ルールの周知

⑤就職先との連携（訪問者の面談・情報提供・本学卒業生の就労状況に関する雇用先の満足度調査－旧卒業生の雇用に関する満足度調査など）

⑥就職懇談会の企画・調整・実施（キャリアデザイン）

(3) 就職先に関する業務

①雇用に関する満足度調査

②授業「キャリアデザインⅡ 就職懇談会」に関する依頼・調整・当日の支援

③就職先内定後研修の情報収集、養成校と就職先の連携方法や内容提言の検討

5. 学生の経済的支援に関する業務

(1) 奨学金に関する業務・・・奨学金委員会

①本学独自奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

・和泉奨学金・眞鍋記念奨学金・児童福祉奨学金・学修奨励奨学金
・学生ボランティア活動奨励奨学金・愛のいずみ基金など

②外部奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

・日本学生支援機構奨学金・篠原欣子記念財団奨学金・保育士修学資金貸付金
・生命保険協会介護福祉士就学資金・介護福祉士修学資金貸付金など

(2) 学生保険に関する業務

①学生教育研究災害傷害保険の手続き

②学生への情報提供・手続き支援

6. 学生の賞罰に関する業務

(1) 表彰に関する業務

・眞鍋記念賞・讃岐和家記念賞・中島武夫記念賞・伊藤忠利記念賞
・学長賞・ボランティア活動奨励賞

①各賞についての周知（学生サポートブック）

②教職員へ推薦者募集の周知・受付・資料作成

③受賞者の選定（教授会）・受賞者への連絡

④表彰式の日程調整・贈呈者へ依頼・実施

⑤情報の公開（HP・IZUMI NEWS など）

(2) 懲戒処分に関する業務

①事象発生の把握・情報収集

②危機管理委員会への情報提供・日程調整

③当該学生（保証人）への連絡・手続きの支援

④情報の公開の検討・調整・実施

7. 学友会・各種学生の委員会活動に関する業務

(1) 学友会活動への支援に関する業務

- ①新入生オリエンテーションでのガイダンス支援（前年度内の準備など）
- ②新入生勧誘企画の支援（サークル勧誘 DAY などの準備・機材貸与）
- ③学友会総会 5 月・12 月開催の支援
（日程調整、委任状・アンケート準備、予算案・活動計画・学生総会結果の周知）
- ④学校行事・企画に関する支援
（いずみ祭・講演会などの企画・連絡・調整・実施など）
- ⑤学生の大学教育活動と参加に関する企画・支援（感染症予防対策・教育的活動など）
- ⑥大学との意見交換の支援
（教育活動等への意見聴取・意見交換会などの支援）
- ⑦執行部の活動の支援
（各部門の担当決め・新年度学友会委員顔合わせなどの支援）
学友会運営の支援・後期 1 年生執行部決めの支援・総会準備
- ⑧関係各所（バスドライバー・各センター・I ショップ学食等）と卒業イベント委員の交流支援
（感謝のメッセージ）
- ⑨学友会予算の検討
- ⑩卒業記念品の検討

(2) 各種学生の委員会活動（S A 委員会など）への支援

- ①学生の委員会・人数の検討・調整
- ②委員会と活動内容の周知（学生サポートブック）
- ③入学・進級時オリエンテーションでの周知
- ④グループアドバイザーへの情報提供・委員決定の依頼
- ⑤各委員会の活動支援

(3) 新しい秋季イベント（オータムフェスタ等）に関する業務

- ①学事における日程調整
- ②年間の活動スケジュールの立案・調整
- ③実習サポート委員会との連携（授業プログラム・配布資料・活動費等）
- ④学友会・S A 委員会・サークルとの連携・活動支援
- ⑤飲食出店等に関する企画立案、外部各社・地域との連絡・相談などの支援
- ⑥父母会・後援会・同窓会との連携（オータムギフト券など）
- ⑦各ユニットとの連携（情報提供・日程調整・職務分掌・打ち合わせ会など）

(4) 卒業イベント（卒業式・卒業パーティー等）に関する業務

- ①学事予定における日程調整
- ②教育・学習支援ユニットとの連携（式典との時間・内容調整など）
- ③各ユニットとの連携（庶務ユニットとのバス運行予定調整など）
- ④父母会との連携（ガウン貸し出し支援）
- ⑤卒業イベント委員会への情報提供・開催準備の支援

- ⑥父母会・後援会・同窓会・協力各社宛 招待状（感謝状）の作成・発送の支援
- ⑦外部業者への発注・調整の支援（食事・備品・暖房器具・音響・撮影・花束など）
- ⑧当日進行の支援（タイムテーブル・司会台本・企画・景品など）
- ⑨会場設営・片付けの支援（装飾・舞台用講義台・床シート・椅子など）

8. 課外活動に関する業務

(1) 課外サークル活動への支援に関する業務

- ①感染拡大予防対策のための活動中止時期を経たサークル活動立ち上げに関する支援
- ②学友会サークル部門との連携・支援
- ③サークル活動申請の支援（活動申請書）
- ④学内活動に関する支援（日時・活動場所届など）
- ⑤サークル活動立ち上げから軌道に乗るまで、顧問教職員との連携強化
- ⑥サークルバスの運行に関する支援
- ⑦サークル活動日の警備員の依頼・調整
- ⑦サークル活動日の職員の勤務調整

(2) 学外活動に関する支援

- ①予算申請（登録・交通費・引率など）
- ②試合などの出場に関する支援（情報共有・登録・日程調整・交通費申請など）
- ③当日参加のための支援（交通手段・引率・応援など）

9. 保証人・父母会・後援会に関する業務

(1) 保証人との連携に関する業務

- ①保証人会の日程調整・周知・準備・運営

(2) 父母会との連携に関する業務

- ①父母会総会の開催の支援（通知・記録など）
- ②父母会報の発行の支援（データ・写真提供）
- ③父母会活動の支援（業者との調整ー植栽・観葉植物・卒業ガウン保管など）

(3) 後援会との連携に関する業務

- ①後援会活動の支援（活動計画・活動予定・予算）
- ②後援会総会開催の支援（日程調整・通知・会場準備・記録）
- ③会報発行の支援（データ・写真提供）

10. 卒業生に関する業務

(1) 卒業生アンケートの実施（作成・発送・集計分析・HP 公表）

補助金申請に関わり 2020 年度～同調査内容を継続して実施

- (2) 2022 年度より実施した回収率改善対策（ポイント付与）・効果検証等
- (3) 就職情報の提供（既卒者募集情報）
- (4) 住所・氏名変更などの受付・登録

2023 年度重点課題

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策
- (2) 健康管理センターの機能の充実
 - ①健康にかかわる学生指導について情報発信・教育の充実
 - ②多様な学生に対応した保健室・学生相談室の運用・連携
 - ③保健室の環境整備計画の策定（多様な学生に対応可能・感染症対策）
- (3) 学友会、学生委員会、サークル活動の支援（役割分担・活動内容の検討）
- (4) 秋季イベントの企画・実施、実習サポート委員会との連携
- (5) キャリアデザインⅡ 授業の在り方・内容の検討、教務委員会・宗教委員会との連携・調整
- (6) バスのマナーの向上・改善方法の検討
- (7) ステークホルダーとの連携強化
- (8) 就職先を対象として卒業生の就労状況に関する満足度調査（雇用満足度調査）
卒業生アンケートの充実と各委員会・WG と連携した分析・検討
- (9) 卒業関連行事の在り方、検討
- (10) 委託生の修学支援（学内各所との連携・学習状況の把握等）
- (11) 個々の学生の修学支援（家庭・学習・経済的な状況に応じ、各部署・GA と連携）
- (12) 学生の現状に即した魅力ある卒業アルバムの在り方・内容の検討

入試広報委員会（入試広報部長 松山 洋平）

1. 広報関係

- (1) 学園報（IZUMI NEWS）の発行（4 回／年）
- (2) 入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- (3) 神奈川県私立短期大学協会会長校及び学生募集・広報部会の活動
- (4) 進学相談会等（高校教員向け 2 回、市内高校保育・高大接続授業研究プログラム）
- (5) 入試対策の開催及び充実のための検討（イベント型と非対話型によるハイブリッド型戦略）
オープンキャンパス 14 回、ナイトオープンキャンパス 4 回、キャンパス見学会、
LINE 個別相談随時、WEB 版キャンパスツアー、WEB 版体験授業など
- (6) オープンキャンパススタッフ学生及びワークスタディ学生の育成
- (7) 高等学校進路説明会（進学説明、オンライン含む・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- (8) 公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）充実のための検討
- (9) 公開授業（市内小学校・中学校・高校[高大接続授業]）の開催及び充実のための検討
- (10) 和泉授業体験会（和泉プレカレッジ）の開催及び充実のための検討
- (11) ホームページ及びSNS（Twitter、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）による
ニュース配信や充実のための検討
- (12) 保育・福祉職への関心を高めるための中等教育との連携強化（入試広報戦略）
- (13) 相模原市保育連絡協議会、相模原市幼稚園・認定こども園協会、産業界、自治体等との連携
強化（地域連携活動の強化）「第 2 次中期計画（2020 年度～2024 年度）15 のビジョン」に
向けた対応
- (14) 地方学生に向けた取り組み（不動産会社との連携について）
- (15) 同窓会との交流

(16)その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- (1) 学校推薦型選抜指定校の選定と変更
- (2) 入学案内書の充実
- (3) 入試マルわかり BOOK の改定
- (4) 入試対策ブックの改定
- (5) 神奈川県専門人材育成コース 委託訓練生の募集
- (6) 他大学の入試関係データ収集
- (7) 他大学の入学者状況の把握
- (8) その他の入試関係業務の遂行

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 矢野 由佳子）

1. 実習に関する業務

- (1) 実習先施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ② 実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年2回）
 - ③ 「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付
- (2) 実習実施に関わる業務
 - ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
 - ② 上記①の実施期間の一本化への努力（1月期：保育所、2月期：施設）
 - ③ 登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
 - ④ 学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期など）
 - ⑤ 実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続きなどの支援（各種フォーマットの作成、配布）
 - ⑥ 腸内細菌検査・予防接種抗体検査などに関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
 - ⑦ 健康管理センターとの連携（専門職としての健康などに関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解など）
 - ⑧ 巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表
 - ⑨ 巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き
 - ⑩ 実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
 - ⑪ 学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理
 - ⑫ 実習先パンフレットなど関連資料の収集と学生への提供
- (3) 学生の個別的支援を要する事例について
 - ① 実習指導授業担当教員との連携・協議など
 - ② 障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議など（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

- (1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援

- ①授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
- ②実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
- ③実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
- ④実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施
- ⑤「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット作成など）
- (2)「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ①実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ②「実習ルールブック」作成、配布
 - ③実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④改訂版「実習ステップブック」の活用（発行日までの教材準備）
 - ⑤SA（スチューデント・アシスタント）への支援、指導
- (3)他授業・委員会と関連した業務
 - ①「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ②学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携

3. 2023 年度の重点課題

- (1)上記1. 2. について、コロナ禍での業務となった2022年度の実績や経験を基にして、2023年度も状況に応じつつ着実にやっていく。
- (2)実習指導連絡会の充実のため、教務委員会、学生委員会と連携する。
 コロナ禍を経て会合への参加方法の選択肢が増えたことを鑑み、開催方法を対面に限定せず、対面とオンラインを年に1回ずつ交互に行う方法を検討する。
 例) 2023年6月（幼稚園）対面方式。11月（保育所・施設）をZoom開催。
 2024年6月（幼稚園）をZoom開催。11月（保育所・施設）を対面方式。
 会場変更に伴う実施方法の確認を綿密に行う。
- (3)引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（新型コロナウイルス緊急対策特別委員会、障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）
- (4)学びのマネージメントWGとの連携による実習指導内容の精査・充実。
 ポートフォリオ・GoogleClassroomを活用した学生への連絡について検討・充実。特に事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
- (5)2023年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、及び協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (6)実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (7)引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話など）
- (8)引き続き、実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のル

ールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。

(9) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に関わる「実習の記録」（日誌）の作成や、実習目標の内容理解について、実習指導以外の授業科目との連携を図り、指導内容の向上を目指す。

(10) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また LC・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。

地域連携推進センター委員会（委員長 松浦 浩樹）

本委員会は、次の委員会、ワーキンググループを設置し活動を行う。

【図書委員会】（委員長 松浦 浩樹）

1. COVID-19 感染予防対策の徹底

- ① 館内換気の徹底
- ② 館内入場者数の制限
- ③ 入場時の手指消毒・マスク着用の徹底
- ④ カウンターへのビニールカーテンの設置
- ⑤ カウンター対応時等のソーシャルディスタンス確保の徹底
- ⑥ 返却資料への対応

2. 研究紀要発行に関する検討

- ① 査読付き論文を含む研究紀要第 44 号の発行
- ② 研究紀要の電子化の検討

3. 特設展示の充実

- ① 新着図書紹介
- ② 各種特集図書の別置・企画展示

4. 蔵書の充実

- ① 保育に関する専門書及び絵本の充実
- ② 選書バイヤーツアーによる蔵書購入
- ③ シラバスに基づいた蔵書の構築
- ④ 電子書籍及びデータベースの導入に向けた検討

5. 図書館利用者サービスの向上

- ① 書架案内表示の充実
- ② 卒業生・入学予定者の利用の周知
- ③ すまいい参加者・市民大学講座受講者等、地域住民等が利用しやすい環境づくり
- ④ 図書館利用者教育、図書館ツアーの実施

6. 図書館利用者のモラル向上

- ① 人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
- ② 図書未返却者への督促強化

- ③ 資料の紛失等への対策強化
- ④ 利用者の拡大に伴う防犯対策の充実
- 7. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
- 8. 図書館サポーター活動の充実
 - ① 選書ツアー（4. ②）
 - ② POP製作・展示
 - ③ 学生からの意見・提案聴取
- 9. 図書館主宰イベントの実施
 - ① 折り紙コンテスト
 - ② クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
 - ③ その他（館内上映会開催等）
- 10. 図書館ホームページの充実、リンクの充実
- 11. ラーニングセンターwillとの連携
- 12. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加
- 13. 全国図書館大会（岩手）への参加
- 14. 卒業生、特別利用者の利用者手続き

【地域連携推進委員会】（委員長 松浦 浩樹）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

- 1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供
 - ① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援
 - ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
 - ・ボランティア活動届の配付・受付
 - ② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進
 - ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
 - ・相模原市への推薦業務
 - ③ 学生サークル等のボランティア活動支援
- 2. オレンジリボン活動
 - ① オレンジリボン・キャンペーン（相模原市包括連携協定校事業関連）への協力と協働
 - ・オレンジリボン作成、街頭配布への学生参加促進
 - ・図書館内に子ども虐待防止啓発コーナーの設置
 - ・学内とユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置他
 - ② オレンジリボン運動（（NPO 法人）児童虐待防止全国ネットワーク）への登録・報告
 - ・学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示
 - ・マスク配布（学内とユニコムプラザ内本学ブースに配置他）
- 3. ユニコムプラザ関連事業への協力
 - ① まちづくりフェスタ参加
 - ② その他関連事業への協力（さがまちチャレンジ等）

4. さがまちコンソーシアム関連

- ① 「市民大学」開催
- ② さがまちカレッジ開催
- ③ さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介と参加促進
- ④ 市民大学連絡会議長職担当（輪番制）

5. 関連事項・ニュース等の把握・広報

- ① 相模原市中央区光が丘地区まちづくり会議への参加と協力
- ② 関連団体の会合出席と情報共有

6. 他大学との連携

- ① 私立大学情報教育協会 短期大学による地域貢献支援事業（地域価値発見事業）への参加
- ② さがまちプラットフォーム（私立大学等改革総合支援事業：タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型））への協力

【子育て支援プログラム（はっぴい・すまいい）ワーキンググループ】

（委員長 吉田 久仁子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4.8月を除く毎月1回、土曜日）

① 子育て家族への支援

安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。

ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）

② 学生に実践的な学びの場を提供する

乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供

学生主体の企画を発表する場の提供

事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供

参加学生との交流・実践的研修の提供

③ 入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する

④ 卒業生との連携

活動時のボランティア受け入れ

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤ その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. CDC の整備及び子育てひろば「すまいい」（施設開放：授業のある毎週木曜日の実施、2023年度39回予定）との連携

① 地域親子に CDC を遊び場、子育て支援の場として開放する

保育環境として相応しい維持整備を継続する

② 学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備

* COVID-19 感染状況により、感染拡大防止の観点から 2020～2022 年度同様に地域への開放を中

止する可能性があり、その場合は、本学ウェブサイトより中止を知らせる。尚、開催にあたり、毎回本学ウェブサイトより事前予約制とし、3密を避けるよう配慮する。

- * 「はっぴい」「すまいいい」活動が中止された場合には、登録ボランティア学生を対象に、子育て支援における教材研究（年2回）を行う。

児童福祉研究室（室長 矢野 由佳子）

児童福祉研究室は、法人創立60周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため2017年11月に設立された。その目的は本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として次の5項目が和泉短期大学児童福祉研究室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開するために、2018年度より児童福祉研究「いっしょに子育て」を年1回発刊することを定めた。そこで、2023年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第6号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2023年発行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第6号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言
- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言
- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2022年度は地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援に関わる活動について検討を行った。これは和泉短期大学第2次中期計画に向けた取り組みのひとつである「地域連携活動の強化」において重要な位置づけにある。しかし、2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から具体的な実施には至らなかったため、2023年度においては、地域連携推進委員会および「はっぴい・すまいいいWG」と慎重に協議を重ね、状況に配慮しながら、安全な形での協同開催に向けて検討を行う予定である。

そして、(1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等に関連し、2023年度は教員の研究支援を充実させたいと考えている。具体的にはデータ分析や論文執筆の際の疑問などに教員同士で協力し合う相談窓口としての機能・環境を構築したい。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2023年	3月上旬発行予定
・全教員紹介	2023年	4月上旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2023年	4月上旬配布予定
・保護者向け冊子	2023年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2023年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 57号	2023年	5月下旬発行予定
〃 58号	2023年	8月上旬発行予定
〃 59号	2023年	12月上旬発行予定
〃 60号	2024年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2023年	7月上旬発送予定
・ 〃 ②(いずみ祭)	2023年	9月下旬発送予定
・ 〃 ③(クリスマスカード)	2023年	12月上旬発送予定
・ 〃 ④(3月オープンキャンパス)	2024年	2月上旬発送予定

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月2回）
- ・高大接続授業研究プログラム（6月1回、8月1回）
- ・和泉授業体験会（プレカレッジ）（7月1回、2月1回、2月高校1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・LINE 個別相談（1年間随時）
- ・WEB オープンキャンパス（都度）
- ・ホームページ及びSNS（Twitter、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）情報発信

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・高等学校内ガイダンス・オンラインガイダンス・模擬授業（随時）
- ・かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（4月）
- ・進学相談会（会場形式）（随時）
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」（かながわ大学生涯学習推進協議会）（10月）

(4) 公開講座

- ・市民大学（相模原市・座間市と共催）前期・後期2講座
- ・さがまちカレッジ「子ども向け夏休み体験講座」（8月）

和 泉 短 期 大 学

(1) インターネット関連

(2023年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ進路/基本参画、学科詳細レポート (インターネット商品)	1年間
キッズコーポレーション(株)	進学ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)昭栄広報	ポータルサイト (高校生の気持ち) ライトプラン	1年間
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	1年間
(株)マイナビ	進路のミカタ (インターネット商品)	1年間
(株)進研アド	マナビジョン短大パッケージ (インターネット商品)	1年間
ライン(株)	LINE	1年間
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4月

(2) 雑誌掲出

(2023年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
キッズコーポレーション(株)	進学の森 大学・短大カタログ	4月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典 (東日本版)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK 学校見学ノート	4月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	こどもタウンニュース	7月
	〃 元旦号・名刺広告・Web 掲載	1月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1月
(株) ショッパー社	新年名刺広告	1月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月

(3) 交通広告等掲載

(2023年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1年間
(株)アドベル	路線バス車内放送広告 (相模大野区間・淵野辺区間)	1年間

2023年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

金額

(教員関係経費)

11,495

研究費

児童福祉学科

単価

教員数

○ 教授	250	×	5	1,250
○ 特任教授	250	×	2	500
○ 准教授	240	×	7	1,680
○ 専任講師	230	×	2	460
○ 助教	220	×	3	660

19

計

4,550

専攻科

単価

○ 准教授	240	×	1	240
○ 特任教授	250	×	1	250
○ 特任助教	220	×	1	220

3

計

710

22名

合計

(

5,260)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	

計

1,300

合計

6,560

教材費

○ 専任・非常勤教員

2,735

旅費交通費

○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回

22名

2,200

(施設)

101,010

内容

設置場所

金額

土地	○ 土地<第2号基本金対象資産>	1,536㎡	スクールバス駐車場	繰延 ①	100,000
----	------------------	--------	-----------	------	---------

※ 2022年度から繰り延べ

計

(

100,000)

建物

○

全熱交換機(ロスナイ)

3台

200・212教室

取替更新 ⑦

1,010

(設備)

内容

設置場所

1,435

教育研究用

機器備品

○ プロジェクター一式

1台

210教室

取替更新 ②

419

計

(

419)

管理用機器備品

計

(

0)

図書

書

児童福祉学科 996 専攻科 20

1,016

計

(

1,016)

2023年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	数	場 所	金 額
印 刷 費	○ 児童福祉研究室 第5号(刊行誌)	2,000		436
	○ 学びのハンドブック	570		302
	○ 学生サポートブック	300		592
	○ 研究紀要	350		561
	○ 教職研究	250		153
	○ 自己点検・評価報告書	250		133
	計 (			2,177)
通 信 費	○ インターネット回線 遠隔会議対応 年間使用料		2号館、4号館	新規 ② 688
	○ インターネット回線 遠隔授業対応		1号館、3号館	564
	○ 電話料			819
	○ スクールバス遠隔監視システム通信料			123
	計 (			2,194)
光 熱 水 費	○ 電気	2022年度対比 230%増	割引契約解消	23,305
	○ 水道			1,033
	○ プロパンガス			1,109
消 耗 品 費	○ プロジェクターに係るケーブル他	一式	210教室	取替更新 ② 88
	○ 遠隔会議 Wi-Fi増強、ルーター	2号館、4号館	2号館研究室他	新規 ② 518
	○ 講師用椅子	5 脚	5 教室	取替更新 ⑦ 184
	○ 井戸水造水機用丸形組立水槽	1	1号館機械室	新規 ⑦ 132
	計 (			922)
維 持 修 繕 費	○ インターネット回線初期導入工事費	研究室、教室	2号館、4号館	新規 ② 228
	○ 教室等網戸設置	121枚	1号館他・教室	新規 ③ 2,194
	○ 自動ドアセンサー交換	2か所	1.2号館	取替更新 ⑦ 391
	○ 窓ガラス遮光フィルム	45枚	6教室	取替更新 ⑦ 623
	○ 教室間仕切り壁撤去	1号館	101教室	⑦ 325
	○ ベンチ(木製、鉄)、テーブル塗装	11か所	中庭、ホール前	⑦ 88
	○ 街灯ポール塗装	14本	中庭・建物外構	⑦ 339
	○ 高架水槽、換気ロダクト塗装		1号館屋上他	⑦ 634
	○ 既存施設設備修繕費			2,000
	○ 構内樹木剪定		校地・グラウンド	2,946
	計 (			9,768)
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃		全 館	14,671
	計 (			14,671)

2023年度 事業計画 予算 骨子

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費	内 容	数	場 所	金 額
支払報酬手数料	○ 学修成果の可視化システム年間使用料	年間管理料	教学ユニット	新規 ② 1,100
	○ 全熱交換機工事	3台	200教室他	新規 ③ 382
	○ 電子稟議書年額利用料	年間使用料	庶務ユニット	新規 ⑥ 546
	○ 電子帳簿法対応システム使用料	2025年1月施行	庶務ユニット	新規 ⑥ 45
	○ 派遣職員費用	2名	経理・広報	継続 ⑦ 5,827
	○ SPSSソフト保守料		学術情報	新規 ⑦ 200
	○ アセスメントテスト(基礎力リサーチ)	1.2年生	4回	継続 ② 1,881
	○ Zoom 法人契約アカウント使用料	38アカウント		継続 ② 496
	○ MS包括ライセンス	54		継続 ② 710
	○ 授業目的公衆送信保証金	学生数	著作権	継続 ② 301
	○ スクールバス運行料	4台		34,913
	○ 監査法人、弁護士、税理士、社労士補修			3,845
	○ 校医料、健康診断料			785
	○ 食堂委託管理費			2,515
	○ 管理人業務費 機械警備含む			5,895
	○ Web出願システム、TikTok業務委託			767
	○ 業務用システム維持支援費		教学・広報	924
	○ 学生・教職員安否確認システム			1,298
計 (				60,948)

賃 借 料	○ モバイルポケット Wi-Fi	34台	学生貸与	継続 ② 1,561
	○ コロナ対策 ウイルス除去装置	26台	13教室他	継続 ③ 973
	○ コロナ対策 ウイルス除去装置	20台	9教室	継続 ③ 456
	○ 教員用ノートパソコン	35台	研究室他	627
	○ 複合機・印刷機	5台	1号館・2号館	518
	○ ファイアーウォール		1号館設置	783
	○ 職員用 パソコン デスクトップ	25台、サーバー2台	事務局	1,252
	○ 防犯カメラシステム一式 (再リース)	19か所	学内外	70
	○ 学生用パソコン ノート	50台	212教室	1,532
	○ スクールバス リース(5年)	4台	大型3台、中型1台	17,830
	○ スクールバス 再リース	3月から	大型3台、中型1台	107
	○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	385
	○ AEDリース料	2台		124
	○ 公用車リース料	1台	軽自動車	360
	○ スクールバス駐車場賃料	1,536㎡	2号館隣地	2,640
計 (				29,218)

奨 学 費 (給 付)	○ 高等教育の修学制度による奨学費	40名	入学金・授業料	1年生 ⑤ 34,800
	○ 高等教育の修学制度による奨学費	31名	授業料	2年生 ⑤ 15,501
	○ スカラシップ特待生奨学費	5名	入学金・授業料一部	1年生 ⑤ 1,500
	○ 眞鍋記念奨学金	10名		650
	○ 児童福祉奨学金	8名		1,400
	○ 卒業生・在学生家族	14名		700
	○ 学修奨励奨学金	15名		1,370
	○ ボランティア活動奨励奨学金	1名		50
	○ 愛のいずみ基金奨学金	1名		500
	○ 専攻科 学業修学資金	1名		300
計 (				56,771)

広 報 宣 伝 費	内 容	個数	場所	
	○ 和泉短期大学校看板	6枚	2号館3階壁面	新規 ④ 275
	○ 和泉短期大学前停留所車内放送	淵野辺駅行き、相模はエア駅行き区間		新規 ④ 185
	○ 入学案内書、媒体広告他			20,220
計 (				20,680)

2023年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費

内 容 数 場 所

金 額

雑	費	○ 市街化編入による下水道負担金	芝地グラウンド、テニスコート	新規 ⑦	157
		○ 学生フェア、卒業パーティー			539
		○ FD・SD研修費			200
		○ 卒業記念品・在学生バック他			408
計 (					1,304)

※ 2023年度 重点事業計画

①	土地取得経費	1,460㎡	2号館隣接地	①	100,000
②	ICT教育関連・学修成果の可視化システム・遠隔教育他			②	8,554
③	感染症対策・換気対策			③	4,005
④	学校名看板取付、バス車内放送		2号館3階外壁	④	460
⑤	奨学費（高等教育修学支援制度）他	71名	補助金対象	⑤	51,801
⑥	電子稟議、電帳法、Web出願対策他		D X 対策	⑥	1,358
⑦	教育・環境整備等			⑦	9,910

資金収支計算書（2019年度 ～ 2023年度）

学校法人和泉短期大学

（単位：千円）

				決 算	予 算	予 算
科 目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収 入 の 部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	468,648	469,342	482,195	471,450	444,490
	手 数 料 収 入	6,787	7,141	5,990	7,000	6,356
	寄 付 金 収 入	2,296	2,740	2,727	2,000	1,000
	補 助 金 収 入	39,870	73,648	85,313	83,636	93,157
	資 産 売 却 収 入	192,852	0	0	0	0
	付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	6,566	16,406	21,161	26,118	27,367
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	19,721	20,639	20,270	20,123	20,700
	雑 収 入	13,842	22,506	84,589	32,242	6,900
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	142,910	165,330	130,095	135,920	119,870
	そ の 他 の 収 入	26,518	2,160,726	2,272,064	203,629	148,635
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 182,565	△ 165,096	△ 262,350	△ 164,544	△ 141,044
	資 金 収 入 計	737,445	2,773,382	2,842,054	817,574	727,431
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,031,744	1,904,164	1,284,569	1,098,588	1,020,000
	合 計	2,769,189	4,677,546	4,126,623	1,916,162	1,747,431
支 出 の 部	人 件 費 支 出	392,760	397,535	454,368	398,400	356,927
	教 育 研 究 経 費 支 出	101,682	152,953	137,390	156,234	175,172
	管 理 経 費 支 出	105,484	113,185	104,530	111,613	114,572
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	10,414	20,280	3,119	100,450	101,010
	設 備 関 係 支 出	1,454	3,044	906	2,027	1,435
	資 産 運 用 支 出	250,071	2,689,706	2,375,390	91,573	69,670
	そ の 他 の 支 出	12,010	30,680	21,965	78,048	45,087
	予 備 費 支 出	0	0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 8,820	△ 14,406	△ 69,633	△ 25,940	0
	資 金 支 出 計	865,055	3,392,977	3,028,035	942,405	893,873
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,904,134	1,284,569	1,098,588	973,757	853,558
	合 計	2,769,189	4,677,546	4,126,623	1,916,162	1,747,431
資 金 収 支 差 額		△ 127,610	△ 619,595	△ 185,981	△ 124,831	△ 166,442
予算学生数		386名	380名	382名	392名	363名
収用定員充足率 500名 / 2022年度 450名		78.6%	80.4%	81.4%	89.6%	89.6%
専 門 学 校 (専 攻 科) 学 生 数		4名	15名	20名	17名	21名
前年度対比学生数		△ 22名	5名	△ 7名	18名	△ 25名

事業活動収支計算書（2019年度 ～ 2023年度）

学校法人和泉短期大学（単位：千円）

科 目			決 算				予 算		予 算				
			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		
			金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	468,648	84.7%	469,342	77.0%	483,010	68.9%	471,450	73.4%	444,490	74.1%	
		手数料	6,787	1.2%	7,141	1.2%	5,990	0.9%	7,000	1.1%	6,356	1.1%	
		寄付金	2,376	0.4%	2,740	0.4%	3,050	0.4%	2,000	0.3%	1,000	0.2%	
		経常費補助金	35,270	6.4%	70,651	11.6%	83,010	11.8%	83,636	13.0%	93,157	15.5%	
		付随事業収入	6,566	1.2%	16,406	2.7%	21,161	3.0%	26,118	4.1%	27,367	4.6%	
		雑収入	13,834	2.5%	22,506	3.7%	84,347	12.0%	32,242	5.0%	6,900	1.2%	
		教育活動収入計	533,481	96.4%	588,786	96.6%	680,568	97.1%	622,446	96.9%	579,270	96.5%	
	事業活動支出の部	人件費	390,039	70.5%	393,304	64.5%	449,733	64.2%	410,525	63.9%	370,056	61.7%	
		教育研究経費支出	163,636	29.6%	207,420	34.0%	188,816	26.9%	204,654	31.8%	224,242	37.4%	
		(減価償却額)	61,882	9.3%	54,460	7.6%	51,106	6.8%	48,420	6.6%	49,070	6.9%	
		管理経費支出	112,962	20.4%	119,982	19.7%	112,074	16.0%	119,076	18.5%	121,949	20.3%	
		(減価償却額)	7,375	1.1%	7,473	1.0%	7,505	920.9%	7,463	1.0%	7,377	1.0%	
		徴収不能額					815	0.1%					
		教育活動支出計	666,637	120.5%	720,706	118.3%	751,438	107.2%	734,255	114.3%	716,247	119.4%	
	教育活動収支差額			△ 133,156	-25.0%	△ 131,920	-22.4%	△ 70,870	-10.4%	△ 111,809	-18.0%	△ 136,977	-23.6%
	教育活動外収支	事業活動収支	資産運用収入	19,721	3.6%	20,639	3.4%	20,270	2.9%	20,123	3.1%	20,700	3.5%
			教育活動外収入計	19,721		20,639		20,270		20,123		20,700	
			教育活動外支出計	0		0		0		0		0	
			教育活動外収支差額	19,721		20,639		20,270		20,123		20,700	
経常収支差額			△ 113,435	-20.5%	△ 111,281	-18.3%	△ 50,600	-7.2%	△ 91,686	-14.3%	△ 116,277	-19.4%	
特別収支	事業活動収支	資産売却差額	12,852		0		0		0		0		
		その他の特別収入	4,608	0.8%	2,997	0.5%	2,544	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	
		特別収入計	17,460		2,997		2,544		0		0		
		資産処分差額	2,531		461		558						
		その他の特別支出	8		0		0		0		0		
		特別支出計	2,539		461		558		0		0		
		特別収支差額	14,921		2,536		1,986		0		0		
		【予備費】							30,000		30,000		
事業活動収入			570,662		612,422		703,382		642,569		599,970		
事業活動支出			669,176		721,167		751,996		764,255		746,247		
基本金組入前当年度収支差額＝事業活動収支差額			△ 98,514	-17.3%	△ 108,745	-17.8%	△ 48,614	-6.9%	△ 121,686	-18.9%	△ 146,277	-24.4%	
基本金組入額			△ 4,723		△ 5,604		△ 1,573		△ 2,947		△ 3,396		
当年度収支差額			△ 103,237		△ 114,349		△ 50,187		△ 124,633		△ 149,673		
前年度繰越収支差額			2,856,105		2,752,868		2,638,519		2,590,517		2,465,884		
基本金取崩額			0		0		2,185		0		0		
翌年度繰越収支差額			2,752,868		2,638,519		2,590,517		2,465,884		2,316,211		
事業活動収支差額比率			-17.3%		-17.8%		-6.9%		-18.9%		-24.4%		
教育活動収入－（教育活動支出－減価償却費）			△ 63,899		△ 69,987		△ 12,259		△ 55,926		△ 80,530		

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2022年度	
基本金組入額	△ 4,723	0.8%	△ 5,604	0.9%	△ 1,573	0.2%	△ 2,947	0.5%	△ 3,396	0.6%
（第1号基本金組入額）	△ 2,591	0.5%	△ 3,935	0.6%		0.0%	△ 101,374	15.8%	△ 101,856	17.0%
（第2号基本金組入額）						0.0%	100,000	-15.6%	100,000	-16.7%
（第3号基本金組入額）	△ 2,132	0.4%	△ 1,669	0.3%	△ 1,573	0.2%	△ 1,573	0.2%	△ 1,540	0.3%
（第4号基本金組入額）	0		0		0		0		0	